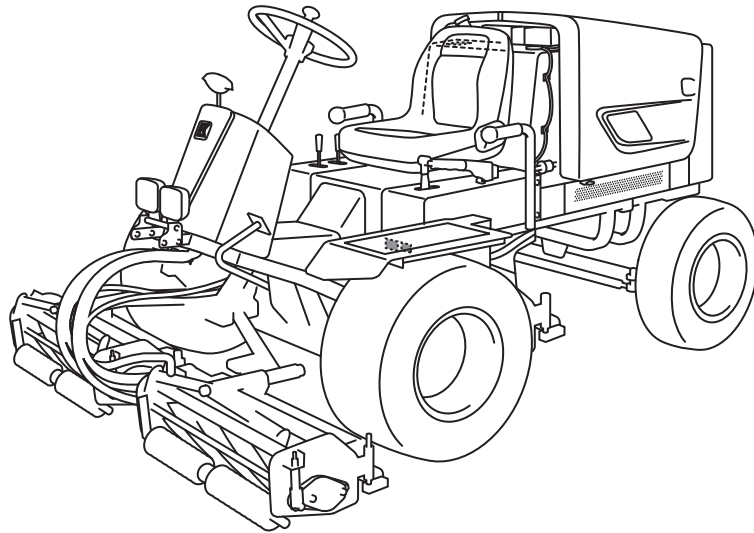


# LM281

乗用3連リールモア

## 取扱説明書



Serial No. LM281 : 10282-

「必読」  
ご使用前に必ず本書をお読みください。

---

**BARONESS**<sup>®</sup>  
Quality on Demand

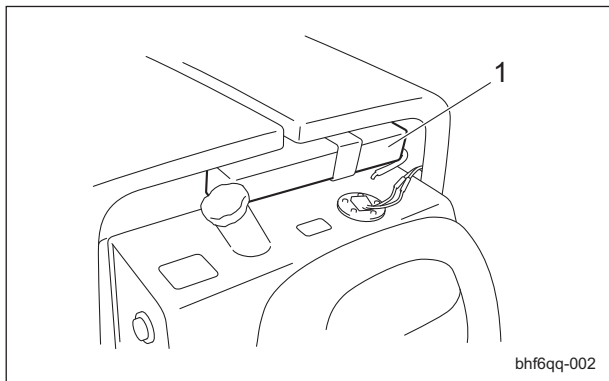
Ver.1.8

# ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。  
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

## 取扱説明書の保管場所

本書は、シート後ろのボックスにて保管してください。



取扱説明書の保管場所\_001

1	ボックス
---	------

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

この機械のメンテナンスは、専門知識のある整備士が実施してください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽にパロネス販売代理店または弊社にお問い合わせください。


お問い合わせの際には、必ずこの製品の機種名と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しください。

株式会社 共栄社

## 危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 <small>696cq5-001</small>	危険警告記号
<p>この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。          いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。          これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。</p>	
<p><b>⚠ 危険</b>          その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。</p>	
<p><b>⚠ 警告</b>          その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。</p>	
<p><b>⚠ 注意</b>          その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。</p>	
<p><b>重要</b>          製品の構造などの注意点を示しています。</p>	

# はじめに

---

## 使用上の注意

### 注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書
- ・ バッテリーの取扱説明書

## 使用目的

この製品は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

---

<b>安全</b> .....	<b>Page 1-1</b>
安全上の注意事項 .....	Page 1-2
<b>廃棄</b> .....	<b>Page 2-1</b>
リサイクルおよび廃棄処分 .....	Page 2-2
<b>製品概要</b> .....	<b>Page 3-1</b>
仕様 .....	Page 3-2
各部の名称 .....	Page 3-4
規制ラベル .....	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベル .....	Page 3-6
<b>取り扱い説明</b> .....	<b>Page 4-1</b>
点検 .....	Page 4-2
締め付けトルク .....	Page 4-12
使用前の調整 .....	Page 4-16
エンジン始動・停止方法 .....	Page 4-20
操作方法 .....	Page 4-22
計器 .....	Page 4-29
移動 .....	Page 4-32
刈り込み .....	Page 4-33
運搬 .....	Page 4-34
保管 .....	Page 4-34
<b>メンテナンス</b> .....	<b>Page 5-1</b>
メンテナンス上の注意 .....	Page 5-2
メンテナンススケジュール .....	Page 5-3
ジャッキアップ .....	Page 5-5
グリースアップ .....	Page 5-6
注油 .....	Page 5-10
メンテナンスの方法 .....	Page 5-11



---

安全上の注意事項 .....	Page 1-2
トレーニング .....	Page 1-2
使用する前に .....	Page 1-2
運転・操作 .....	Page 1-3
保守 .....	Page 1-4
保管 .....	Page 1-5

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

### ⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

## 安全上の注意事項

### トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。  
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が本書で使用している言語が読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。  
トレーニングはオーナーの責任です。特に以下の点についての十分な指導が必要です。
  - [1] 乗用機械を取り扱うときは注意と集中が必要である。
  - [2] 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。  
斜面で制御不能となる主な原因：
    - タイヤのグリップ不足
    - 速度の出しすぎ
    - 不適切なブレーキ操作
    - 不適切な機種選定
    - 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
    - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を使用させないでください。  
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他者に対する事故、あるいは器物損壊に対する責任があり、それらを防ぐことができます。

6. 他者に対する事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うことに留意してください。
7. ROPS は転倒時保護装置です。  
ROPS を取り外したり変更しないでください。
8. 損傷した ROPS は交換してください。  
修理や改造をしないでください。
9. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
10. 通常操作位置から機械の左右を決めています。

### 使用する前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。  
メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、マスク、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。  
長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれるおそれがあります。  
裸足やサンダルで機械を使用しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。  
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

### ⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。  
エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。



6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。  
これらが正しく機能しないときには機械を使用しないでください。
7. ブレーキの効きが悪い場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
9. マフラーが破損したら必ず交換してください。
10. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
14. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
15. わき見運転、手放し運転はしないでください。
16. 「安全な斜面」はありません。  
芝生や草が生えた斜面での走行には特に注意が必要です。  
転倒を防ぐために、次の指示に従ってください。  
[1] 斜面では急停止、急発進しない。  
[2] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。  
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。  
[3] 斜面の走行や旋回は低速で行う。  
[4] 凸凹や穴、隠れた障害物が無いか常に注意する。

## 運転・操作

1. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
2. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
3. エンジンを始動する前に、すべての駆動部を遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。  
運転席に着座してエンジンを始動してください。  
シートベルトがある場合は着用してください。
4. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。  
エンジンを規定以上の回転速度で使用すると、人身事故を起こす危険が増大します。
5. ガードや安全保護装置が破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま機械を運転しないでください。  
インターロック装置は絶対に取り外さないでください。  
正しく調整した状態で使用してください。
6. 回転部に手足を近づけないでください。
7. オペレーター以外の人を乗せないでください。
8. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に機械を使用しないでください。
9. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
10. 落雷のおそれがあるときは、運転を中断して機械から離れてください。
11. 急停止、急発進しないでください。
12. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
13. 旋回するとき、道路を横切るときは減速し、周囲に十分注意してください。
17. 決められた角度以上の傾斜地またはスリップの危険がある場所では、絶対に使用しない。
18. グラスキャッチャーや他のアタッチメントを使用して機械を運転しているときは、特別な注意を払ってください。  
それらは機械の安定性に影響することがあります。
19. 作業時以外は、カッティングユニットへの駆動を停止してください。
20. 機械を離れる場合は次を厳守してください。  
[1] 平らな場所に停止する。  
[2] すべての駆動を停止する。  
[3] 駐車ブレーキをかける。  
[4] エンジンを停止する。  
[5] エンジンキーを抜き取る。
21. 以下のような状況になった場合には、エンジンを停止してください。  
[1] 燃料を給油するとき。  
[2] グラスキャッチャーを取り外すとき。  
[3] 作業高さや作業深さを調整するとき。  
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。  
[4] 詰まりを取り除くとき。  
[5] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。  
[6] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。  
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
22. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。

23. 人に向かって排出物を排出しないでください。壁や障害物に対して排出物を排出しないでください。排出物は、オペレーターに向かって跳ね返ることがあります。
24. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、輪止めをして行ってください。トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
25. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
7. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
8. 可動部に手足を近づけないでください。可能な限り、エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
9. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
10. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
11. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 油圧機器を取り外すなど、油圧システムの整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
14. 油圧システムのラインコネクターは十分に締まっているかを確認してください。油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
15. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故をおこすおそれがありますので、十分注意してください。万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

## 保守

1. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
2. 修理・調整・清掃作業の前には以下を行ってください。
  - [1] 平らな場所で機械を停止する。
  - [2] カuttingユニットへの駆動を停止する。
  - [3] Cuttingユニットおよび装備している場合はアタッチメントを下げる。
  - [4] 駐車ブレーキをかける。
  - [5] エンジンを停止する。
  - [6] エンジンキーを抜き取る。
  - [7] 機械のすべての動きが完全に停止したことを確認する。
3. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
4. 火災防止のため、エンジンやマフラーなどの高温部、バッテリー、および燃料タンクの周囲に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
5. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
6. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
16. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには安全に十分注意してください。必ず手袋を着用してください。
17. 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
18. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
19. グラスキャッチャーの磨耗や劣化を、こまめに点検してください。
20. バッテリーの充電は、火花や火気の無い換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う場合は、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶縁された工具を使用してください。

21. 燃料タンクから燃料を抜く場合は、屋外で作業をしてください。

## 保管

1. 機械を保管するときには必ずカuttingユニットおよび装備している場合はアタッチメントを下げておいてください。  
ただしカuttingユニットを上げた位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
2. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
3. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
4. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
5. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
6. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
7. エンジンクーラントを飲み込むと、健康に害をおよぼしたり死を引き起こすことがあります。子供やペットの手の届かないところに保管してください。



リサイクルおよび廃棄処分 .....Page 2-2

リサイクルについて ..... Page 2-2

廃棄処分について .....Page 2-2

## リサイクルおよび廃棄処分

### リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。  
また、地域によっては法律により義務付けられています。

### 廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。  
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

<b>仕様</b> .....	<b>Page 3-2</b>
仕様表 .....	Page 3-2
音圧レベル .....	Page 3-3
音響レベル .....	Page 3-3
振動レベル .....	Page 3-3
<b>各部の名称</b> .....	<b>Page 3-4</b>
<b>規制ラベル</b> .....	<b>Page 3-4</b>
規制ラベル貼付位置 .....	Page 3-4
規制ラベルの説明 .....	Page 3-5
<b>警告ラベルと指示ラベル</b> .....	<b>Page 3-6</b>
警告ラベルと指示ラベルについて .....	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベル貼付位置 .....	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベルの説明 .....	Page 3-7

## 製品概要

## 仕様

## 仕様表

機種名		LM281				
名称		乗用3連リールモア				
モアユニット	仕様	ローラータイプ		車輪タイプ		
	#1 モアユニット	76.20 cm	30 in	←	←	
	#2、3 モアユニット	66.04 cm	26 in	←	←	
寸法	全長	265 cm	104.33 in	276 cm	108.66 in	
	全幅	作業時	203 cm	79.92 in	←	←
		移動時	203 cm	79.92 in	←	←
全高	ハンドル	133 cm	53.15 in	←	←	
質量	機械（燃料タンク空）	ROPS 無、 グラスキャッチャー無	1,011 kg	2,228.84 lb	←	←
	グラスキャッチャー（1台分）		15 kg	33.07 lb	-	-
最小回転半径		277 cm	109.06 in	←	←	
エンジン	型式	Kubota D1105		←		
	種類	立形水冷4サイクルディーゼルエンジン		←		
	総排気量	1,123 cm <sup>3</sup> (1.123 L)	68.52 cu.in.	←	←	
	最大出力	-		-		
	定格出力	18.5 kW (25.2 PS) /3,000 rpm		←		
燃料タンク容量		軽油 38.0 dm <sup>3</sup> (38.0 L)	軽油 10.04 U.S.gals	←	←	
燃料消費率		289 g/kW・h (定格出力時)	213 g/PS・h (定格出力時)	←	←	
エンジンオイル容量		3.0 dm <sup>3</sup> (3.0 L)	0.79 U.S.gals	←	←	
冷却水容量		6.0 dm <sup>3</sup> (6.0 L)	1.59 U.S.gal.	←	←	
油圧タンク容量		24.0 dm <sup>3</sup> (24.0 L)	6.34 U.S.gal.	←	←	
ミッションオイル容量		-		-		
作業幅（刈幅）		180 cm	70.87 in	←	←	
作業範囲（刈高）		10 - 60 mm	0.39 - 2.36 in	26 - 68 mm	1.02 - 2.68 in	
リール刃数		5・7枚		5枚		
駆動方式	走行	HST（無段変速）方式（フルタイム4駆）		←		
	作業部	油圧方式		←		
速さ（HST）	前進	0 - 14.4 km/h	0 - 8.95 mph	←	←	
	後進	0 - 8.5 km/h	0 - 5.28 mph	←	←	
速さ（メカ）		-		-		
能率		11,520 m <sup>2</sup> /h (8.0 km/h x 刈幅 x 0.8)	2.85 acres/hour (4.97 mph x 刈幅 x 0.8)	←	←	
使用最大傾斜角度		20度		←		



タイヤサイズ	前輪	23 x 10.50 - 12 4P		←	
	後輪	23 x 8.50 - 12 4P		←	
タイヤ空気圧	前輪	120 kPa (1.2 kgf/cm <sup>2</sup> )	17.40 psi	←	←
	後輪	150 kPa (1.5 kgf/cm <sup>2</sup> )	21.75 psi	←	←
バッテリー	75D23L		←		
スパークプラグ	-		-		

※ 出荷時のエンジン最高回転速度は、3,100 rpm

## 音圧レベル

### 音圧

この機械は、国際規格 ISO 5395-1:2013 に則して同型機で測定した結果、オペレーターの耳の位置での連続聴感補正音圧レベルが 89dB 相当であることが確認されています。

## 音響レベル

### 音響

この機械は、国際規格 ISO5395-1:2013 に則して同型機で測定した結果、音響レベルが 105 dB であることが確認されています。

## 振動レベル

### 腕および手

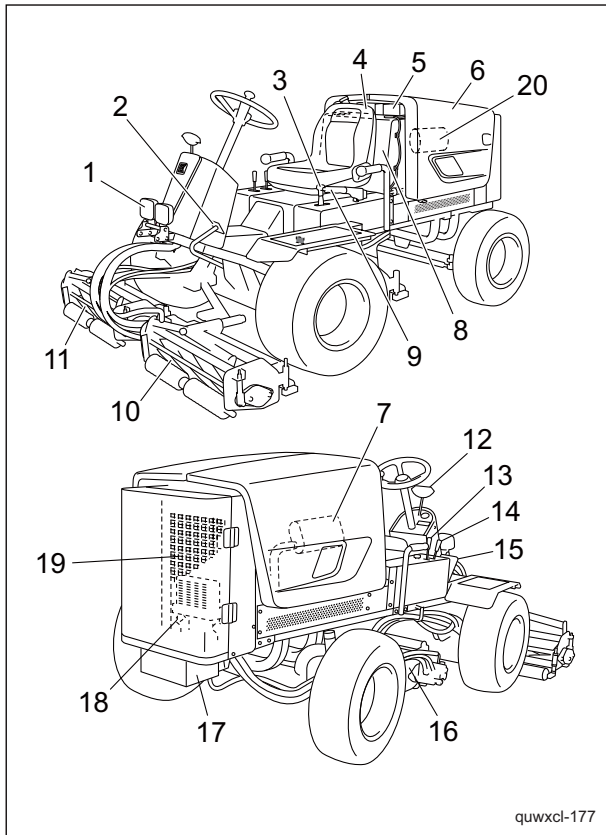
この機械は、国際規格 ISO 5349-1:2001, ISO 5349-2:2001 に則して同型機で測定した結果、手・腕部の振動レベルが 3.81 m/s<sup>2</sup> であることが確認されています。

### 全身

この機械は、国際規格 ISO 2631-1:1997, ISO 2631-2:2003 に則して同型機で測定した結果、全身の振動レベルが 0.99 m/s<sup>2</sup> であることが確認されています。

# 製品概要

## 各部の名称

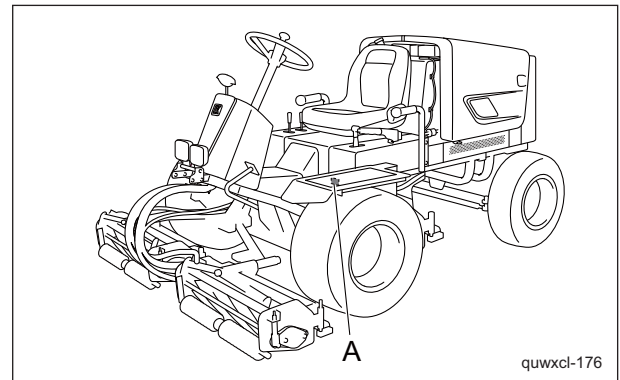


各部の名称\_001

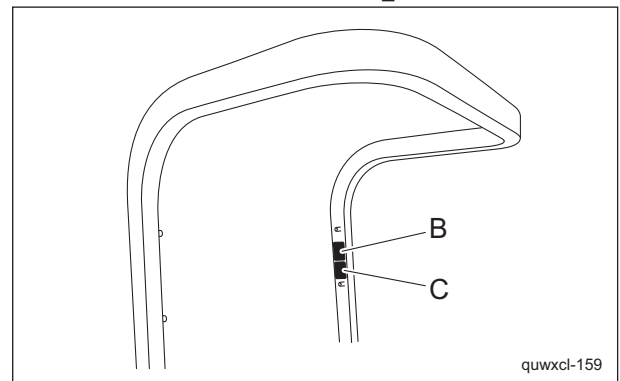
1	ヘッドライト
2	ブレーキペダル
3	スロットルレバー
4	シート
5	ボックス
6	ボンネット
7	マフラー
8	燃料タンク
9	駐車ブレーキレバー
10	#3 モアユニット
11	#2 モアユニット
12	角度計
13	リール回転レバー
14	モアユニット昇降レバー
15	走行ペダル
16	#1 モアユニット
17	バッテリー
18	オイルクーラー
19	ラジエーター
20	エアクリナー

## 規制ラベル

### 規制ラベル貼付位置



規制ラベル貼付位置\_001



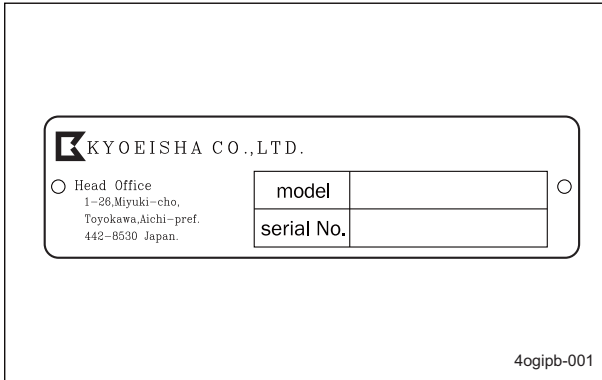
規制ラベル貼付位置\_002

A	機番プレート
B	ROPS 認証ラベル
C	ROPS 注意ラベル

## 規制ラベルの説明

### 機番プレート

機番プレートは、機種名と機番が記載されています。



機番プレート\_001

### ROPS 注意ラベル

ROPS 注意ラベルには、以下の注意事項が記載されています。

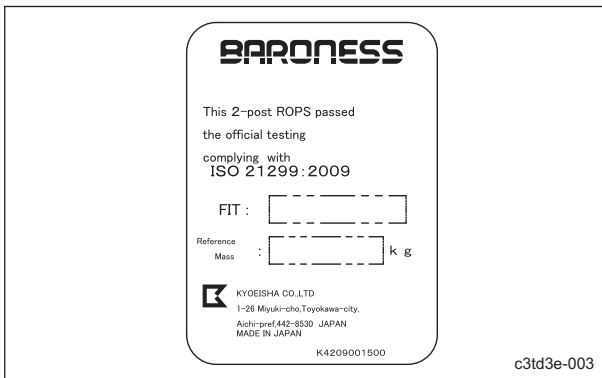
- ・ ダメージを受けた ROPS は交換してください。
- ・ 修理や修正をしないでください。



ROPS 注意ラベル\_001

### ROPS 認証ラベル

ROPS 認証ラベルには、国際規格 ISO21299:2009 に則して、適合機械メーカー、モデルなどが記載されています。



ROPS 認証ラベル\_001

# 製品概要

## 警告ラベルと指示ラベル

### 警告ラベルと指示ラベルについて

#### 重要

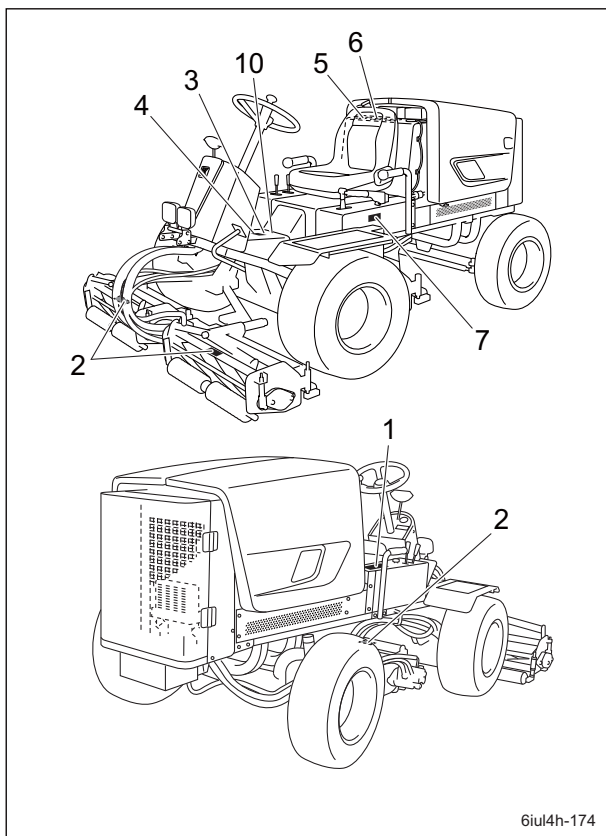
この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。  
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

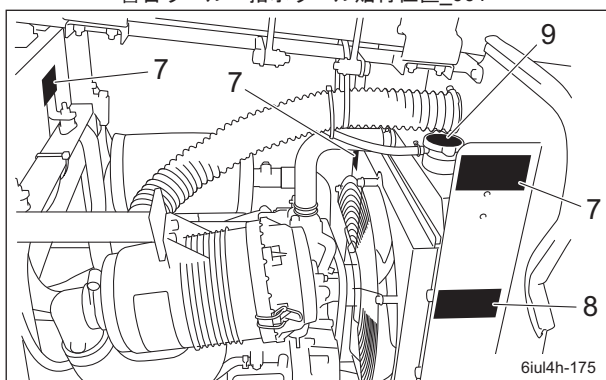
販売代理店または弊社に注文してください。

### 警告ラベル・指示ラベル貼付位置

1	レバー操作ラベル
2	切断注意ラベル
3	DO NOT STEP ラベル
4	油圧作動油マーク
5	軽油給油口マーク
6	火気厳禁ラベル
7	高温部注意ラベル
8	回転物注意ラベル
9	高温部冷却液噴出注意ラベル
10	公道乗車禁止マーク



警告ラベル・指示ラベル貼付位置\_001



警告ラベル・指示ラベル貼付位置\_002

## 警告ラベル・指示ラベルの説明

## レバー操作ラベル

LM281--0902Z0  
レバー操作ラベル

1.



警告

取扱説明書をお読みください。

2.



警告

駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから機械を離れてください。

3.



注意

飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。

4.



警告

手足を切る - 可動部品に近づかないでください。

5.



警告

排ガスに注意

6. ROPS 非装着の場合：



危険

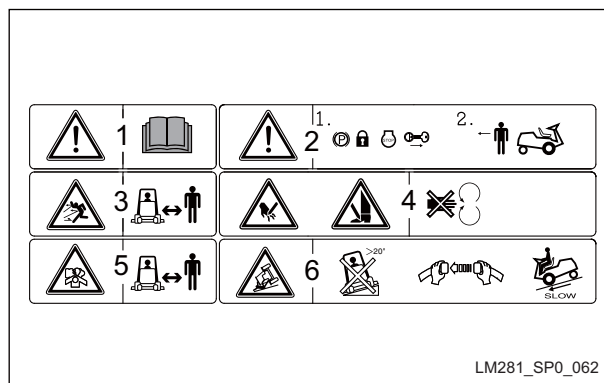
転倒-20度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。  
斜面を下るときは、モアユニットを下げ低速で走行してください。

ROPS 装着の場合：



注意

転倒-20度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。  
斜面を下るときは、モアユニットを下げ低速で走行してください。  
シートベルトを着用してください。(ROPS 装着時)



レバー操作ラベル\_001

## 切断注意ラベル

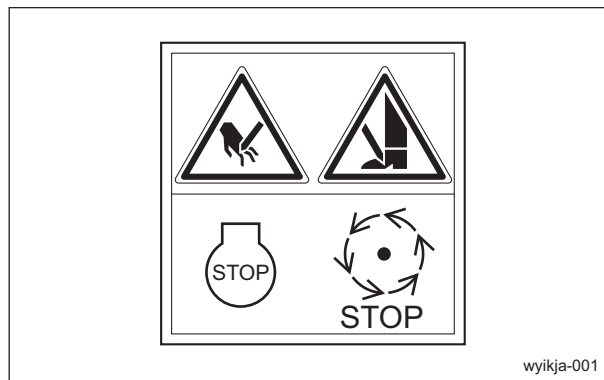
K4205001600

切断注意ラベル



警告

手足を切る - 刃の回転を停止し、エンジンを停止しないとケガをするおそれがあります。



切断注意ラベル\_001

# 製品概要

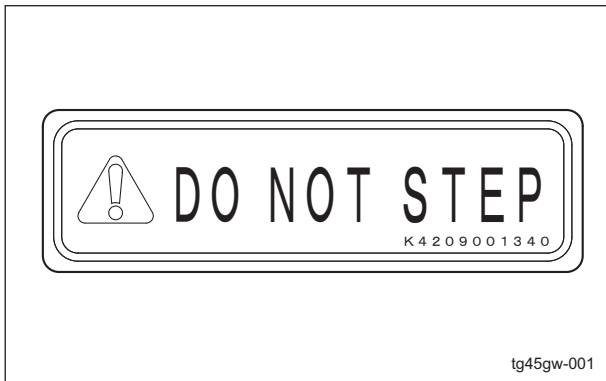
## DO NOT STEP ラベル

K4209001340

DO NOT STEP ラベル



足を載せないでください。



tg45gw-001

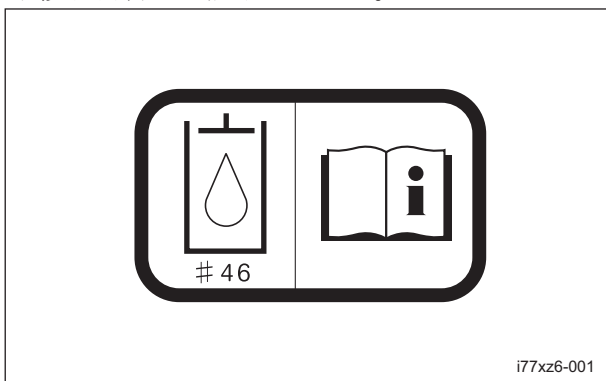
DO NOT STEP ラベル\_001

## 油圧作動油マーク

K4209000980

油圧作動油マーク

取扱説明書をお読みください。



i77xz6-001

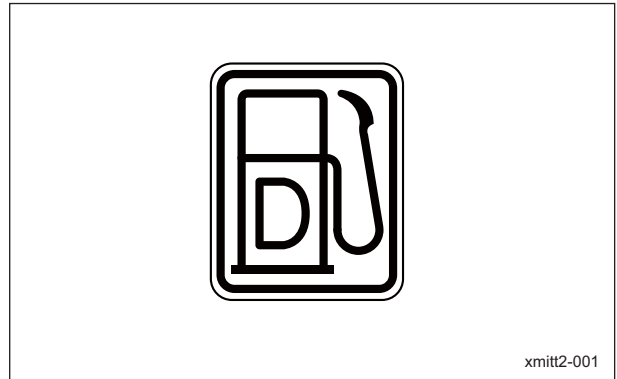
油圧作動油マーク\_001

## 軽油給油口マーク

K4209001000

軽油給油口マーク

軽油を使用してください。



xmitt2-001

軽油給油口マーク\_001

## 火気厳禁ラベル

K4205001940

火気厳禁ラベル



火気厳禁



r653fo-001

火気厳禁ラベル\_001

## 高温部注意ラベル

K4205001540  
高温部注意ラベル



高温 - 火傷をするので、触らないでください。



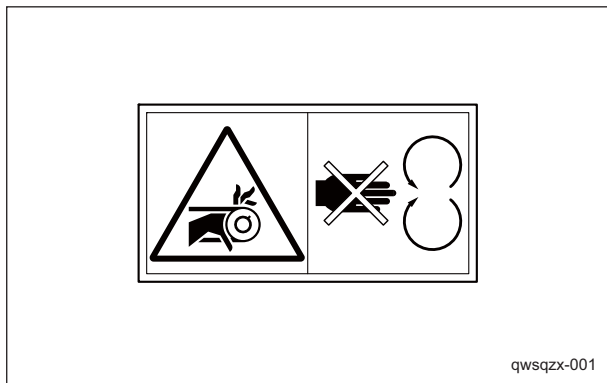
高温部注意ラベル\_001

## 回転物注意ラベル

K4205001530  
回転物注意ラベル



回転物注意 - エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。



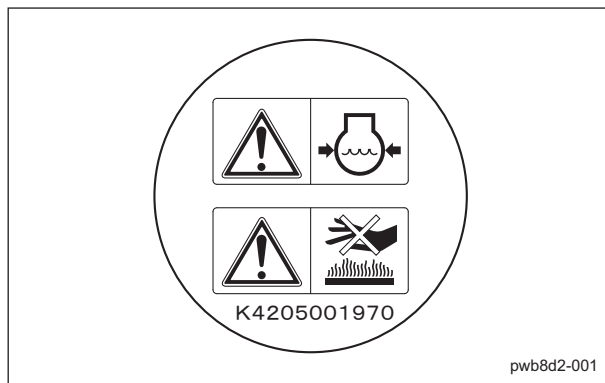
回転物注意ラベル\_001

## 高温部冷却液噴出注意ラベル

K4205001970  
高温部冷却液噴出注意ラベル



冷却液の噴出に注意 - 熱いときは開けないでください。  
高温 - 火傷をするので、触らないでください。



高温部冷却液噴出注意ラベル\_001

## 公道乗車禁止マーク

K4205001660  
公道乗車禁止マーク



46m131-001

公道乗車禁止マーク\_001





<b>点検</b> .....	<b>Page 4-2</b>	エンジン始動・停止 .....	Page 4-20
リールカッターとベッドナイフ .....	Page 4-2	安全装置について .....	Page 4-21
カバー .....	Page 4-2	警報装置について .....	Page 4-21
ローラー .....	Page 4-2	<b>操作方法</b> .....	<b>Page 4-22</b>
CR ブラシ .....	Page 4-2	機械を離れるときの注意 .....	Page 4-22
スクレーパー .....	Page 4-3	操作ラベル貼付位置 .....	Page 4-22
ラジエーターカバー .....	Page 4-3	操作ラベルの説明 .....	Page 4-23
ラジエーター .....	Page 4-3	ライトスイッチ .....	Page 4-25
冷却水 .....	Page 4-4	スロットルレバー .....	Page 4-26
オイルクーラー .....	Page 4-5	モアユニット昇降レバー .....	Page 4-26
油圧作動油 .....	Page 4-5	ストップバルブ .....	Page 4-26
油圧ホース .....	Page 4-6	リール回転レバー .....	Page 4-27
エアクリーナー .....	Page 4-6	リール回転レバーストッパー .....	Page 4-27
バッテリー .....	Page 4-7	リール回転・停止切り替えレバー .....	Page 4-27
電気配線 .....	Page 4-8	走行ペダル .....	Page 4-28
タイヤ .....	Page 4-8	ブレーキペダル .....	Page 4-28
ブレーキ .....	Page 4-8	駐車ブレーキレバー .....	Page 4-28
ベルト .....	Page 4-8	ボンネット .....	Page 4-28
ワイヤー .....	Page 4-9	シート下カバー .....	Page 4-29
安全装置 .....	Page 4-9	<b>計器</b> .....	<b>Page 4-29</b>
エンジン周り .....	Page 4-9	操作パネルの計器説明 .....	Page 4-29
エンジンオイル .....	Page 4-9	アワーメーター .....	Page 4-30
燃料 .....	Page 4-10	水温計 .....	Page 4-30
燃料フィルター .....	Page 4-11	燃料計 .....	Page 4-30
油漏れ .....	Page 4-11	パイロットランプ .....	Page 4-30
<b>締め付けトルク</b> .....	<b>Page 4-12</b>	オーバーヒート警告ブザー .....	Page 4-31
標準締め付けトルク .....	Page 4-12	角度計 .....	Page 4-31
重要締め付けトルク .....	Page 4-15	<b>移動</b> .....	<b>Page 4-32</b>
<b>使用前の調整</b> .....	<b>Page 4-16</b>	走行操作 .....	Page 4-32
シートの調整 .....	Page 4-16	けん引方法 .....	Page 4-32
刃合わせ調整 .....	Page 4-16	<b>刈り込み</b> .....	<b>Page 4-33</b>
刈高の調整 .....	Page 4-17	刈り込み操作 .....	Page 4-33
カッター調節スプリングの調整 .....	Page 4-18	<b>運搬</b> .....	<b>Page 4-34</b>
リフトアームスプリングの調整 .....	Page 4-18	運搬方法 .....	Page 4-34
リールカバーの調整 .....	Page 4-18	<b>保管</b> .....	<b>Page 4-34</b>
CR ブラシの調整 .....	Page 4-19	長期保管 .....	Page 4-34
リヤスクレーパーの調整（ワイヤータ イプ） .....	Page 4-19		
<b>エンジン始動・停止方法</b> .....	<b>Page 4-20</b>		

# 取り扱い説明

## 点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従って点検をしてください。

### リールカッターとベッドナイフ

#### リールカッターとベッドナイフの点検

#### ⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより切れにくくなる場合があります。

リールカッターとベッドナイフの点検をし、必要に応じて刃合わせ調整、リールカッターとベッドナイフのバックラッピング、研磨、または交換をしてください。

1. リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなっていないか確認してください。
2. リールカッターとベッドナイフが割れていないか確認してください。
3. リールカッターとベッドナイフの磨耗量を確認してください。
4. リールカッターとベッドナイフが研削焼けし、変色していないか確認してください。
5. リールカッターのリリーフ（2番）があるか確認してください。
6. リールカッターと円盤との溶接がはがれていないか確認してください。

### カバー

#### カバーの点検

#### ⚠ 警告

点検時にカバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. リールカバーおよび各カバーに磨耗や劣化が無い確認してください。
2. リールカバーおよび各カバーに破損が無い確認してください。
3. リールカバーおよび各カバーの変形による可動部への干渉が無い確認してください。

4. リールカバーおよび各カバーが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

### ローラー

#### ローラーの点検

使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ローラーが円滑に回らないことがあります。

ローラーの点検をし、必要に応じてオイルシール、ベアリングなどの部品を交換してください。

1. ローラーの減り、固着が無い確認してください。
2. ローラー軸が磨耗していないか確認してください。
3. オイルシールの磨耗、損傷は無い確認してください。
4. ベアリングの磨耗、さびは無い確認してください。
5. ローラー軸にガタが無い確認してください。

### CR ブラシ

#### CR ブラシの点検

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。使用頻度によるベアリングの磨耗や、水分が入ることでベアリングなどが損傷することにより、ブラシが円滑に回らないことがあります。ブラシの点検をし、必要に応じてベアリングなどの部品を交換してください。

1. ブラシの減り、固着が無い確認してください。
2. ブラシ軸が磨耗していないか確認してください。
3. ブラシに異常が無い確認してください。
4. ベアリングとハウジングのはめ合いにガタが無い確認してください。
5. ブラシ軸にガタが無い確認してください。

## スクレーパー

### リヤスクレーパーの点検（ワイヤータイプ）

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより作業効果が低下することがあります。

スクレーパーの点検をし、必要に応じて部品を交換してください。

1. スクレーパー（ワイヤー）の切れ、たわみが無いか確認してください。
2. スクレーパーとローラーの接触が無いか確認してください。

## ラジエーターカバー

### ラジエーターカバーの点検

1. ラジエーターカバーに損傷が無いか確認してください。
2. ラジエーターカバーに汚れが無いか確認してください。

### ラジエーターカバーの清掃

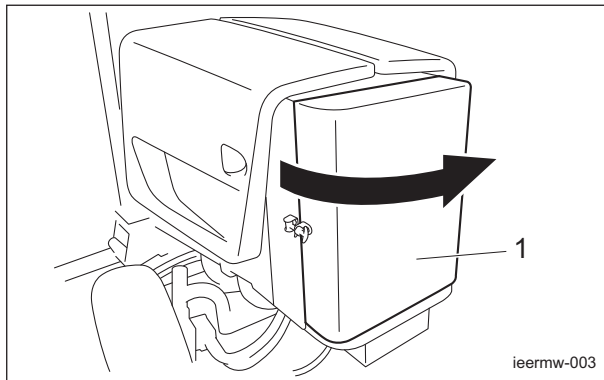
#### 重要

清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。  
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

ラジエーターカバーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。

特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。



ラジエーターカバーの清掃\_001

1	ラジエーターカバー
---	-----------

2. ラジエーターカバーの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

## ラジエーター

### ラジエーターの点検

1. ラジエーターに損傷が無いか確認してください。
2. ラジエーターに汚れが無いか確認してください。

### ラジエーターの清掃

#### 重要

清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。  
また、油圧機器の故障の原因にもなります。

#### 重要

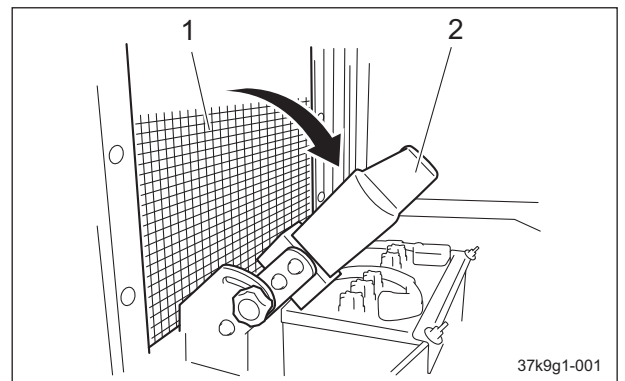
ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバーなどの固いものや高圧洗浄で清掃しないでください。

特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

ラジエーターに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。

特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。
2. オイルクーラーの左右のツマミを緩め、オイルクーラーを傾けてください。



ラジエーターの清掃\_001

1	ラジエーター
2	オイルクーラー

3. ラジエーターの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

# 取り扱い説明

## 冷却水

### 冷却水の点検

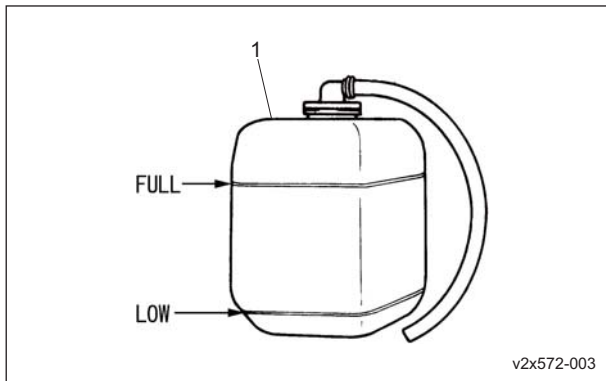
#### ⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

#### ⚠ 注意

点検はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

1. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。



冷却水の点検\_001

1	リザーブタンク
---	---------

### 冷却水の補給

#### ⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

#### ⚠ 注意

補給はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

#### ⚠ 注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が噴き出し、火傷をするおそれがあります。水温と圧力が下がってから、キャップに厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

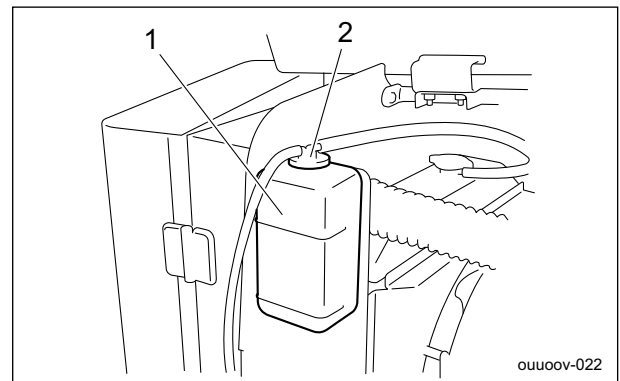
#### 重要

冷却水を補給する場合は、必ず水道水などのきれいな水を使用してください。

#### 重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンがオーバーヒートにより損傷します。

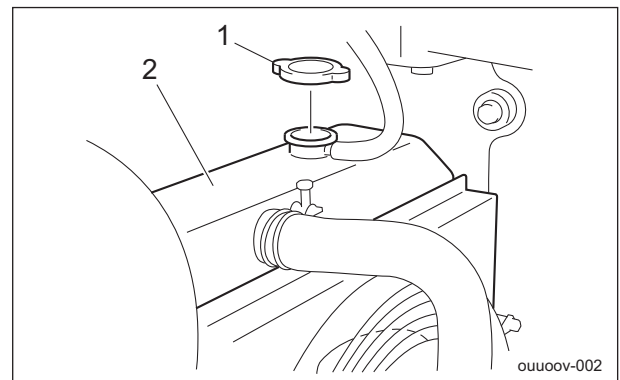
1. リザーブタンクの冷却水が「LOW」以下の場合、リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給\_001

1	リザーブタンク
2	リザーブタンクキャップ

2. リザーブタンクの冷却水が無い場合は、以下の要領できれいな水を補給してください。
  - [1] ラジエーターキャップを開け、口元まできれいな水を補給してください。
  - [2] リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給\_002

1	ラジエーターキャップ
2	ラジエーター

## オイルクーラー

### オイルクーラーの点検

1. オイルクーラーに損傷が無いか確認してください。
2. オイルクーラーに汚れが無いか確認してください。

### オイルクーラーの清掃

#### 重要

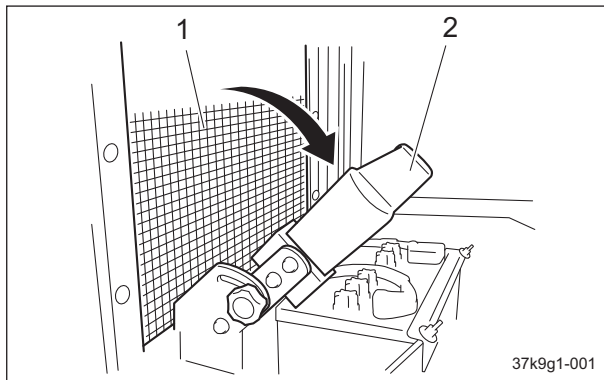
清掃をしないと、油圧機器の故障の原因になります。

#### 重要

ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバーなどの固いものや高圧洗浄で清掃しないでください。  
特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

オイルクーラーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。  
特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。
2. オイルクーラーの左右のツマミを緩め、オイルクーラーを傾けてください。



オイルクーラーの清掃\_001

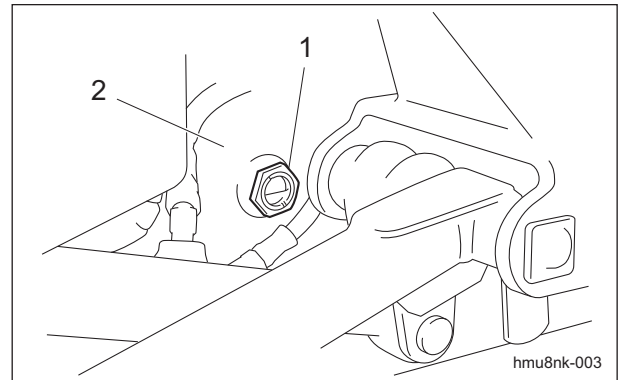
1	ラジエーター
2	オイルクーラー

3. オイルクーラーの裏表を水または圧縮空気ですばりに清掃してください。

## 油圧作動油

### 油圧作動油の点検

1. 水平な場所でモアユニットを上げた状態にしてください。
2. 作動油が油量ゲージの中心まで入っているか確認してください。



油圧作動油の点検\_001

1	油量ゲージ
2	油圧タンク

3. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。



# 取り扱い説明

## 油圧作動油の補給

### 重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

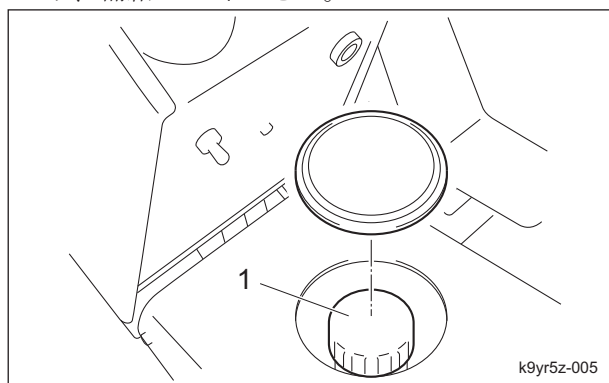
### 重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。  
相当品を使用する場合は油圧作動油性能表を参考に、指定された油圧作動油の数値よりも性能の良いものをご使用ください。  
特に動粘度と粘度指数については、指定数値を満たさない油圧作動油を使用した場合は、油圧回路が故障します。

参考：  
油圧作動油性能表

指定油圧作動油	シェルテラス S2M46	
ISO 粘度グレード	ISO VG46	
密度	15 °C (59 °F)	0.873 g/cm <sup>3</sup> (0.0315 lb/in <sup>3</sup> )
API 度	30.6	
引火点 (開放式)	230 °C (446 °F)	
流動点	-30 °C (-22 °F)	
動粘度	40 °C (104 °F)	46 mm <sup>2</sup> /s (46 cSt)
	100 °C (212 °F)	7 mm <sup>2</sup> /s (7 cSt)
粘度指数	109	

1. 作動油が少ない場合は、タンクキャップを開け、補給してください。



油圧作動油の補給\_001

1 タンクキャップ

2. タンクキャップを確実に閉めてください。
3. エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。前後進を数度繰り返してください。

4. 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
5. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

## 油圧ホース

### 油圧ホースの点検

#### 警告

油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

オイル漏れ、回路の破損、緩み、磨耗、接続部の緩み、気象劣化、および化学的劣化が無いか、配管とホースの確認を行ってください。  
必要があれば、機械を操作する前に修理を行ってください。

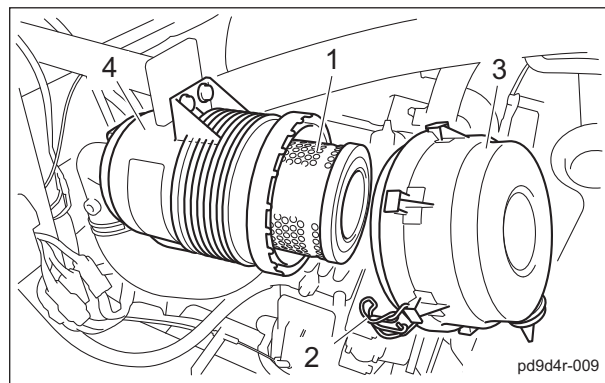
## エアクリーナー

### エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

1. エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
2. エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。



エアクリーナーの点検\_001

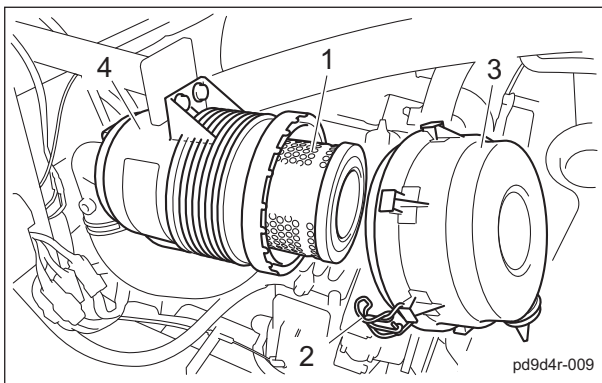
1	エアクリーナーエレメント
2	クリップ
3	エアクリーナーキャップ
4	エアクリーナーボディ

### エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

- 以下の要領で清掃をしてください。
  - クリップを外し、エアクリーナーキャップを取り外し、エアクリーナーエレメントを取り外してください。
  - エアクリーナーエレメントを傷つけないように注意し、エアクリーナーエレメントの固い部分を軽く叩くか、内側から圧縮空気を吹き付けて埃や屑を取り除いてください。もし、極端に汚れている場合は、新しいエアクリーナーエレメントに交換してください。
  - エアクリーナーボディにエアクリーナーエレメントを取り付けてください。
  - エアクリーナーキャップを取り付け、クリップで確実に固定してください。



エアクリーナーの清掃\_001

1	エアクリーナーエレメント
2	クリップ
3	エアクリーナーキャップ
4	エアクリーナーボディ

### バッテリー

#### バッテリーの点検

##### ⚠ 危険

バッテリーの点検・充電は火気厳禁です。  
バッテリーが爆発するおそれがあります。

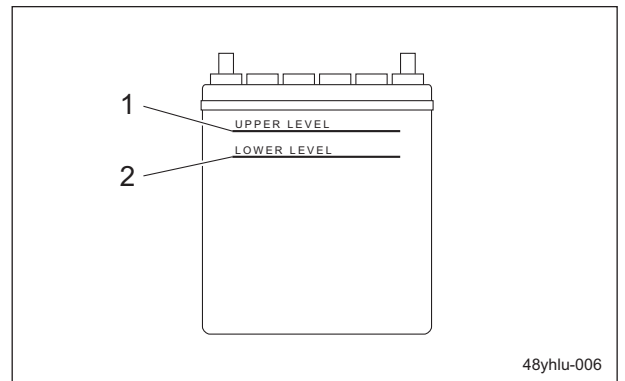
##### ⚠ 警告

バッテリー液の液面を「LOWER LEVEL」（最低液面線）以下にしないでください。  
バッテリー液の液面が「LOWER LEVEL」（最低液面線）になったまま使用または、充電するとバッテリーが爆発するおそれがあります。

##### ⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。  
火傷をするおそれがあります。

- 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。
- バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間にあることを確認してください。



バッテリーの点検\_001

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

# 取り扱い説明

## バッテリー液の補給

### ⚠ 危険

バッテリー液が身体や目、服などに付着したり、飲んだりしないように注意してください。バッテリー液が身体や服に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

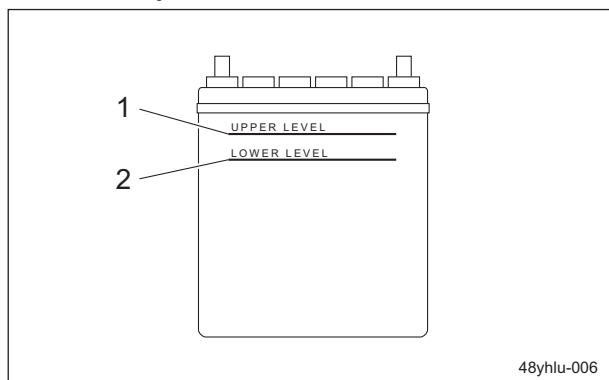
### ⚠ 危険

バッテリー液を補給する際は、保護服、保護メガネなどを着用してください。

### ⚠ 注意

マフラーやエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

1. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」（最高液面線）まで精製水を補給してください。



バッテリー液の補給\_001

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

## 電気配線

### 電気配線の点検

#### 重要

電気配線の短絡は火災、漏電、電気機器の故障の原因となります。

端子の接続不良、配線・端子の損傷、接続部の緩み、気象劣化、および化学的劣化が無いか、電気配線の確認を行ってください。必要があれば、機械を操作する前に修理を行ってください。

## タイヤ

### タイヤの点検

#### ⚠ 注意

規定の空気圧以上いれないでください。

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

タイヤサイズ	空気圧
前輪 (23 x 10.50 - 12 4P)	120 kPa (1.2 kgf/cm <sup>2</sup> )
後輪 (23 x 8.50 - 12 4P)	150 kPa (1.5 kgf/cm <sup>2</sup> )

## ブレーキ

### ブレーキペダルの点検

1. ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、床板とのすき間（踏み残りしろ）が適当であるか確認してください。
2. ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、踏み応えがフワフワしていないか、異音がないか確認してください。
3. 走行中にブレーキペダルを踏み込んだとき、スムーズに止まれるか（ブレーキの効きが適当であるか）を確認してください。

### 駐車ブレーキの点検

1. 駐車ブレーキレバーを引いたとき、ブレーキが効くことを確認してください。
2. プッシュボタンを押し、駐車ブレーキレバーを戻したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

## ベルト

### ベルトの点検

#### ⚠ 警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

#### 重要

ベルトの緩みや損傷、ファンの損傷は、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。



## ワイヤー

### ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

## 安全装置

### 安全装置の点検

安全装置が正常に作動するか確認してください。  
「安全装置について」(Page 4-21)

## エンジン周り

### エンジン周りの点検

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

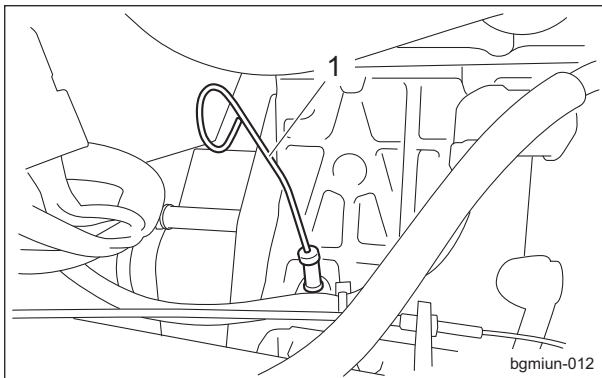
## エンジンオイル

### エンジンオイルの点検

#### 重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

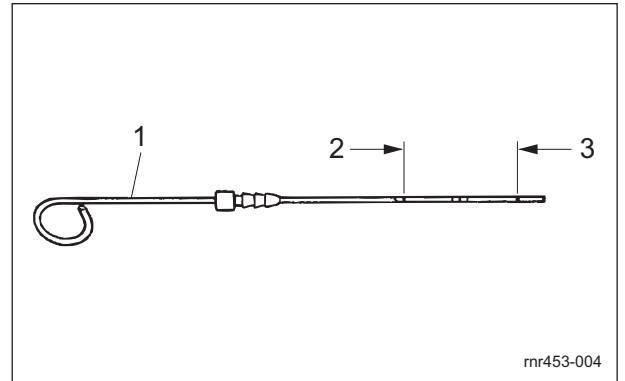
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平状態にし、オイルレベルゲージをいっぱいに差し込み、オイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検\_001

1	オイルレベルゲージ
---	-----------

3. 上限と下限の間であれば適量です。



エンジンオイルの点検\_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

### エンジンオイルの補給

#### 重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

#### 重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

#### 重要

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

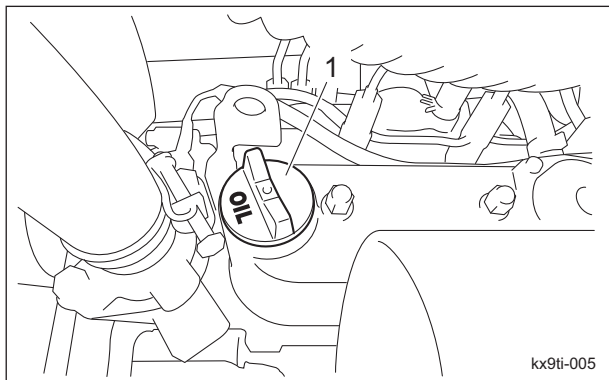
#### 重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

1. エンジンオイルの補給は、オイルフィルターキャップより行います。  
オイルフィルターキャップを取り外し、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。

# 取り扱い説明

2. オイルフィルターキャップを確実に取り付けてください。



エンジンオイルの補給\_001

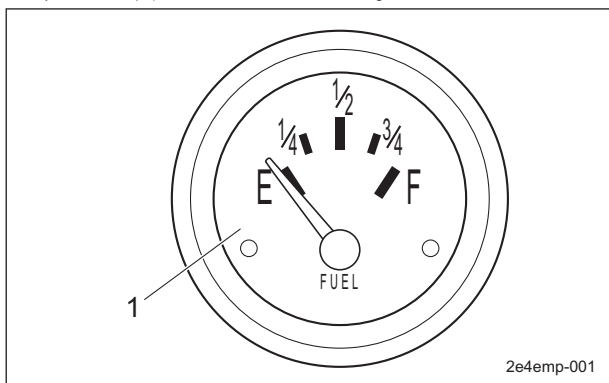
- |   |              |
|---|--------------|
| 1 | オイルフィルターキャップ |
|---|--------------|

3. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。  
補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。

## 燃料

### 燃料の点検

機械を水平な状態にし、操作パネルの燃料計にて、量の確認をしてください。



燃料の点検\_001

- |   |     |
|---|-----|
| 1 | 燃料計 |
|---|-----|

### 燃料の給油

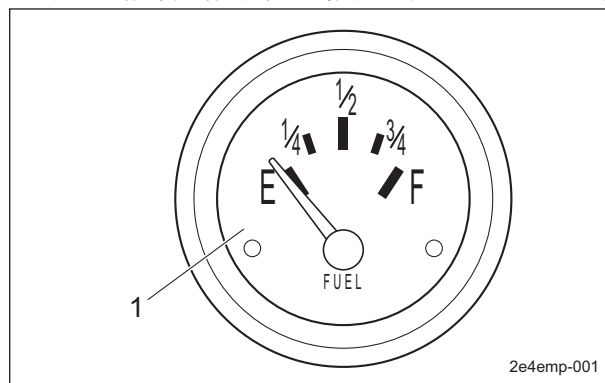
#### 警告

燃料ゲージ中心（赤マーク）の位置以上に給油はしないでください。  
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれる可能性があります。

#### 警告

燃料給油時は、火気厳禁です。  
燃料給油時は、喫煙しないでください。

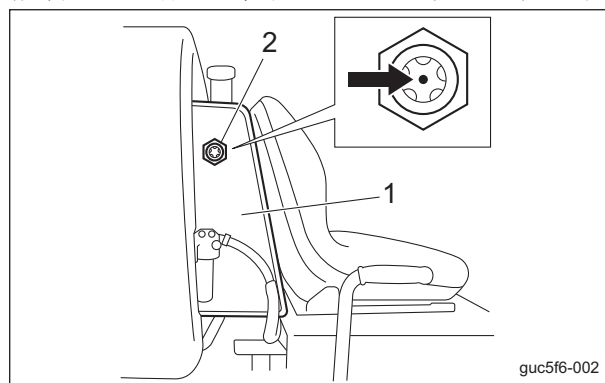
操作パネルの燃料計が、E (EMPTY) に近づいたら早めに燃料（軽油）の給油を行ってください。



燃料の給油\_001

- |   |     |
|---|-----|
| 1 | 燃料計 |
|---|-----|

燃料ゲージの中心（赤マーク）以下に給油してください。  
燃料タンク容量は、約 38.0 dm<sup>3</sup> (38.0 L) です。



燃料の給油\_002

- |   |       |
|---|-------|
| 1 | 燃料タンク |
| 2 | 燃料ゲージ |

## 燃料フィルター

### 燃料フィルターの点検

燃料フィルターは、燃料に混入した異物を除去する働きをしています。  
燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて交換してください。

1. 燃料漏れが無いか確認してください。
2. 傷、汚れが無いか確認してください。

## 油漏れ

### 各部油漏れの点検



**注意**

油圧システムのメンテナンスを行うときは、モアユニットを下げてください。

50時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

# 取り扱い説明

## 締め付けトルク

### 重要

締め付けトルク一覧を参照してください。  
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。


## 標準締め付けトルク



### ボルト、ねじ類

### 重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。  
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。  
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。  
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。  
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。  
めねじの強度が弱い場合は適用できません。  
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。  
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。  
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。  
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。  
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。  
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。  
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。  
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。  
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	 tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	 tib3yb-002			 tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

# 取り扱い説明

## 油圧ホース

管用平行ねじ (G, PF) のついたユニオン継手、およびユニオンアダプターのねじの締め付けトルクは、下記の表のとおりです。

ねじは適正な締め付けトルクで締め付ければ、使用時に緩んだり、漏れたりすることはありません。流体がシール部から漏れる場合は、無理に締め付けず、シート面のゴミや傷の有無を調べてください。無理に締め付けると継手の接触部を破損することがあります。

ねじの継手の締め付けは、なるべくトルクレンチで確実に、適正な締め付けトルク値で締め付けてください。

ホースサイズの呼び	管用平行 ねじの呼び (G,PF)	締め付けトルク		
		N-m	kgf-cm	lb-in
6	1/4	24.50	250	221.28
9	3/8	49.03	500	564.91
12	1/2	58.84	600	677.89
15	3/4	117.68	1200	1,355.78
19	3/4	117.68	1200	1,355.78
25	1	137.30	1400	1,581.74
32	1-1/4	166.72	1700	1,920.69
38	1-1/2	205.94	2100	2,372.61
50	2	245.17	2500	2,824.54

## 平行ねじ付金具 (Oリングシール方式)

平行ねじ付金具 (Oリングシール方式) のねじの締め付けトルクは、下記の表のとおりです。

アジャスタブル継手は、金具をスパナなどにより強引に設定位置まで締め付けた場合、金具およびワッシャーなどが破損することがあります。必ずサイズごとの締め付けトルクを管理してください。

ねじの呼び	締め付けトルク		
	N-m	kgf-cm	lb-in
1/4	34.32 - 49.03	350 - 500	309.79 - 442.55
3/8	68.65 - 78.45	700 - 800	619.57 - 708.08
1/2	98.07 - 117.68	1000 - 1200	885.10 - 1,062.12
3/4	147.10 - 176.52	1500 - 1800	1,327.65 - 1,593.18
1	245.17 - 274.59	2500 - 2800	2,212.75 - 2,478.28
1-1/4	294.20	3000	2,655.30
1-1/2	294.20	3000	2,655.30
2	392.27	4000	3,540.40

## 重要締め付けトルク

## 機種別締め付けトルク

LM281

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性強力封着剤）を塗布してください。

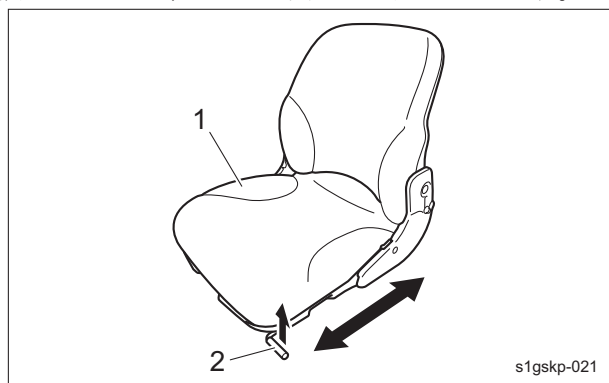
部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤	
			N-m	kgf-cm	lb-in		
前輪	モーター	K0010120602	12 調質ボルト 60	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1,186.03	—
	ホイール取り付け座	K0160000492	24 特殊ナット P1.5	180 - 200	1,835.46 - 2,039.40	1,593.18 - 1,770.20	○
	ホイール	K0011120302	12 調質ボルト 30P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	—
後輪	ホイール取り付け座	K0138240002	24 みぞ付ナット高 P1.5	180 - 200	1,835.46 - 2,039.40	1,593.18 - 1,770.20	—
	ホイール	K0011120302	12 調質ボルト 30P1.5	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	—
タイロッド	K1610000020	タイロッドエンド右 Assy	45	458.87	398.30	—	
	K1611000020	タイロッドエンド左 Assy	45	458.87	398.30	—	
レバーダンパー	K0144080002	8U ナット	—	—	—	○	
エンジン	K0017100252	10 小形調質ボルト 25P1.25	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	—	
			エンジン左前上部は締め付け困難なため、強度区分 4.8 トルク 「標準締め付けトルク」(Page 4-12)				
カップリング	K001A100351	10 六角穴付 12 Tボルト 35	60 - 70	611.82 - 713.79	531.06 - 619.57	—	
	K0010100352	10 調質ボルト 35	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—	
	K0010100202	10 調質ボルト 20	45 - 76	458.87 - 774.97	398.30 - 672.68	—	
	K0010080202	8 調質 11 Tボルト 20	23 - 38	234.53 - 387.49	203.57 - 336.34	—	
ベッドナイフ	K0071001182	10 調質さら小ねじ 16	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—	
ROPS	K0010120402	12 調質ボルト 40	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1,186.03	—	

# 取り扱い説明

## 使用前の調整

### シートの調整

シートは、調整レバーで前後に調整できます。オペレーターの体に合わせて調整してください。調整レバーは、シート下前方に付いています。



シートの調整\_001

1	シート
2	調整レバー

### 刃合わせ調整

#### 警告

駐車ブレーキを確実にかけ、作業を行ってください。

#### 注意

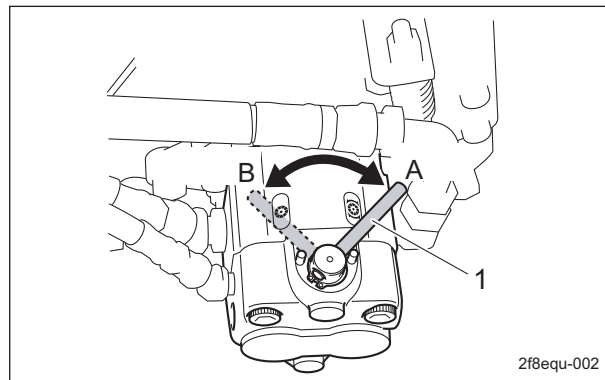
二人以上で作業を行わないでください。

#### 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれ、手や指を切るおそれがありますので、十分注意してください。

1. エンジンを停止してください。

2. リール回転・停止切り替えレバーを「停止」の位置にしてください。



刃合わせ調整\_001

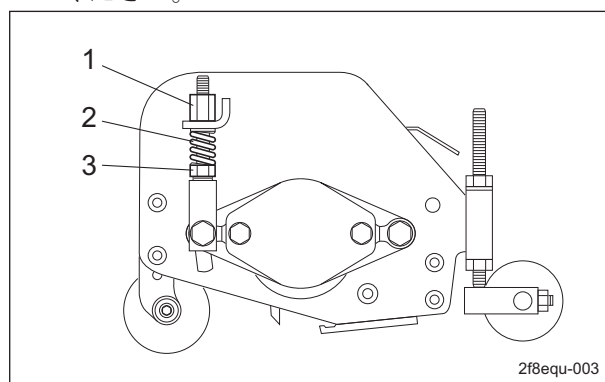
1	リール回転・停止切り替えレバー
A	回転
B	停止

3. リールカッターとベッドナイフの刃合わせ調整は、カッター調節ナットにより刃先全面を軽く接触させ、新聞紙（2 - 3 枚）が切れるように調整してください。

4. 短冊型に裂いた新聞紙 2 - 3 枚をリールカッターとベッドナイフの間に 90° の角度で入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。

リールカッターの全面（3 - 4 か所程度）にわたり、切れ味を調べてください。

- ・ 刃先にすき間が生じた場合  
カッター調節ナットを緩めると（反時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は強くなります。
- ・ リールカッターが固くて回転しにくい場合  
カッター調節ナットを締めると（時計回り）、リールカッターとベッドナイフの接触は弱くなります。
- ・ 調整しても切れない場合  
リールカッターのバックラッピングをしてください。



刃合わせ調整\_002



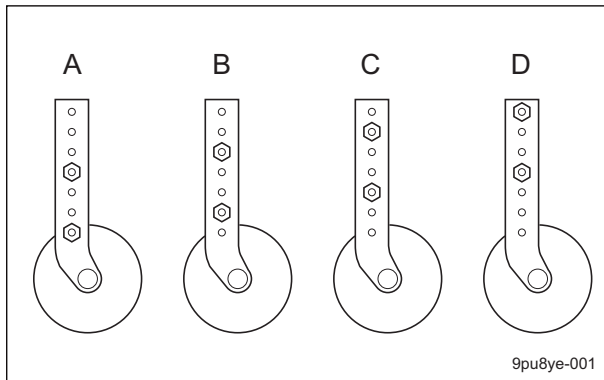
1	カッター調節ナット
2	スプリング
3	カッター調節ネジ付パイプ

## 刈高の調整

### ローラータイプ

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

前ローラーは、4段階に調整できます。



ローラータイプ\_001

A	10.0 - 22.0 mm (0.39 - 0.87 in)
B	20.0 - 30.0 mm (0.78 - 1.18 in)
C	28.0 - 40.0 mm (1.10 - 1.57 in)
D	38.0 - 60.0 mm (1.50 - 2.36 in)

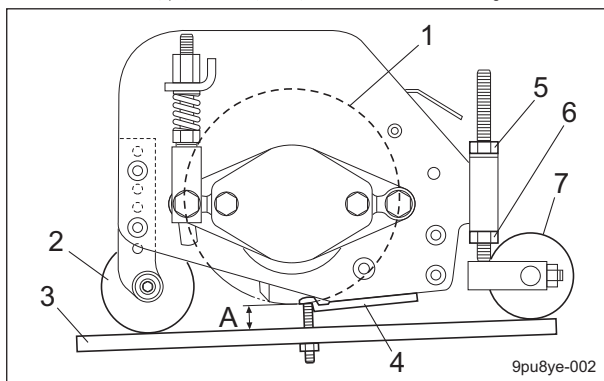
あらかじめ作業に適した刈高範囲の位置に、前ローラーを取り付けます。

#### 1. 刈高を高くする場合

- [1] 刈高調節ナット A を緩め、刈高調節ナット B を締め、後ローラーを下げます。
- [2] 刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット A を確実に締め付けてください。

#### 2. 刈高を低くする場合

- [1] 刈高調節ナット B を緩め、刈高調節ナット A を締め、後ローラーを上げます。
- [2] 刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット B を確実に締め付けてください。



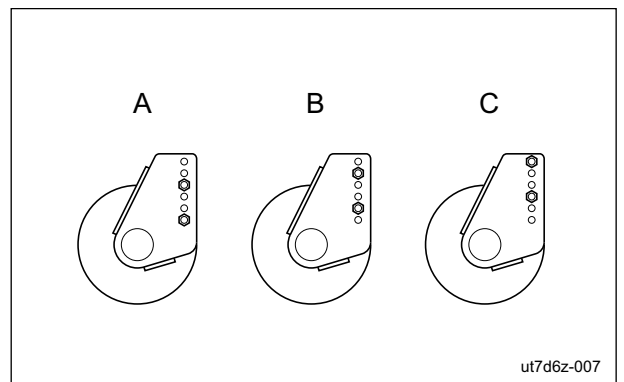
ローラータイプ\_002

1	リールカッター
2	前ローラー
3	刈高ゲージ
4	ベッドナイフ
5	刈高調節ナット A
6	刈高調節ナット B
7	後ローラー
A	刈高

### 車輪タイプ

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

車輪は、3段階に調整できます。



車輪タイプ\_001

A	26 - 40 mm (1.02 - 1.57 in)
B	33 - 47 mm (1.30 - 1.85 in)
C	40 - 68 mm (1.57 - 2.68 in)

あらかじめ作業に適した刈高範囲の位置に、車輪を取り付けます。

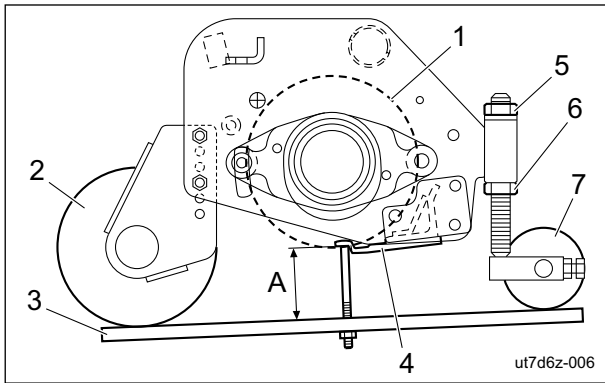
#### 1. 刈高を高くする場合

- [1] 刈高調節ナット A を緩め、刈高調節ナット B を締め、後ローラーを下げます。
- [2] 刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット A を確実に締め付けてください。

#### 2. 刈高を低くする場合

- [1] 刈高調節ナット B を緩め、刈高調節ナット A を締め、後ローラーを上げます。
- [2] 刈高ゲージにて位置を決め、刈高調節ナット B を確実に締め付けてください。

# 取り扱い説明



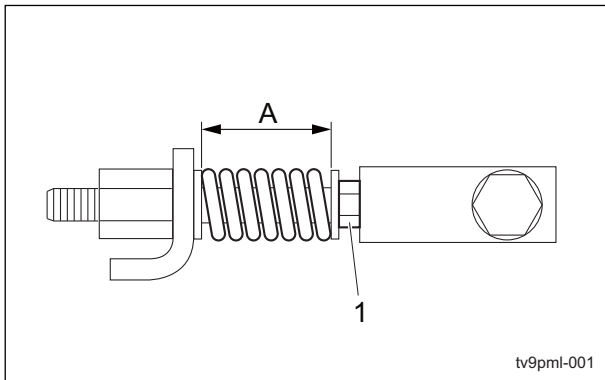
車輪タイプ\_002

1	リールカッター
2	車輪
3	刈高ゲージ
4	ベッドナイフ
5	刈高調節ナット A
6	刈高調節ナット B
7	後ローラー
A	刈高

## カッター調節スプリングの調整

リールカッター径が小さくなったら、カッター調節スプリングの調整をしてください。

1. 刃合わせ調整を行ってください。
2. カッター調節ネジ付パイプを緩め、スプリングコイルの長さが 40.0 mm (1.575 in.) 程度になるように調節してください。



カッター調節スプリングの調整\_001

1	カッター調節ネジ付パイプ
A	40.0 mm (1.575 in.)

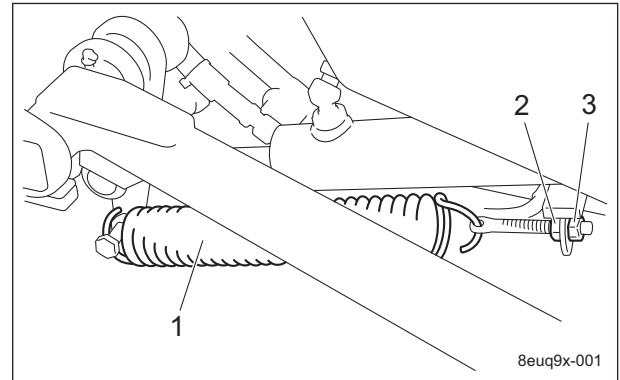
## リフトアームスプリングの調整

### 重要

登坂時、前輪がスリップする場合に調整をしてください。

1. モアユニットを上げてください。

2. ロックナット A を緩め、ロックナット B を締め込んで調整します。
3. 左右同様に行ってください。  
リフトアームスプリングの縮み具合が均等になるように行ってください。



リフトアームスプリングの調整\_001

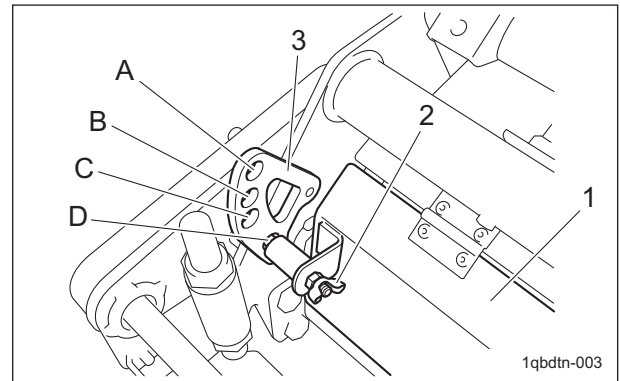
1	リフトアームスプリング
2	ロックナット A
3	ロックナット B

## リールカバーの調整

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。リールカバーは、角度の調整ができます。

1. リールカバーを固定している左右のツマミを引き、固定を解除します。



リールカバーの調整\_001

1	リールカバー
2	ツマミ
3	カバー調整板
A	全開
B	15 度閉
C	30 度閉
D	全閉

2. カバー調整板の穴の位置を変え、リールカバーを固定します。

## CR ブラシの調整

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。

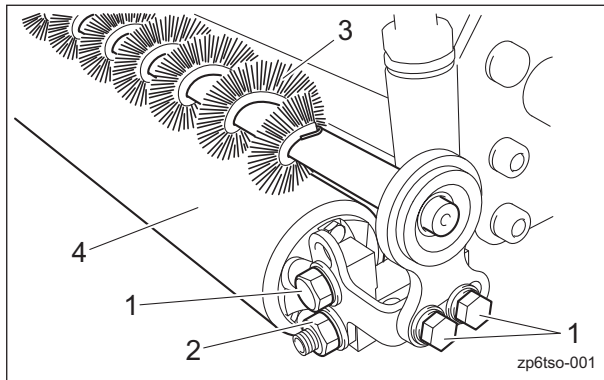
### 重要

ブラシをローラーに強く当てると、ベルトがスリップしたり、切れたりする原因となります。

### 重要

CR ブラシは、回転するブラシにより、後ローラーに刈り芝などが付着することを防止します。

1. CR ブラシの左右に付いている、ボルトとナットを緩めてください。



CR ブラシの調整\_001

1	ボルト
2	ナット
3	ブラシ
4	後ローラー

2. ブラシと後ローラーのすき間を 0 - 1.0 mm (0 - 0.039 in) に調節し、緩めたボルトとナットを確実に締め付けてください。

## リヤスクレーパーの調整(ワイヤータイプ)

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。

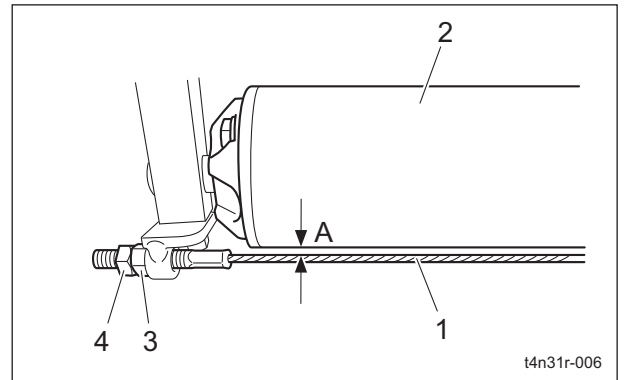
### 重要

スクレーパーを後ローラーに強く当てないでください。  
スクレーパーが切れたり、たわむ原因となります。

スクレーパーは、後ローラーに刈り芝などが付着することを防止します。

1. スクレーパーの左右のロックナットとナットを緩めてください。

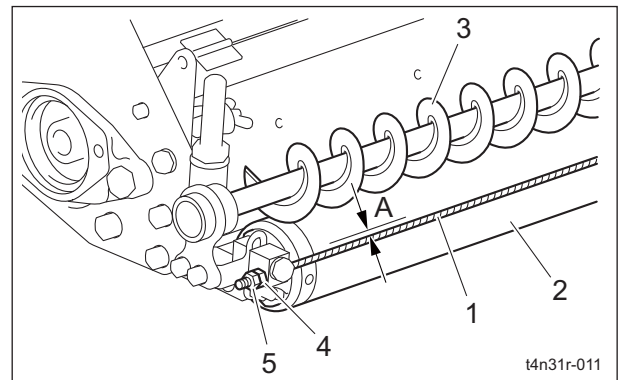
2. ナットを締め付けて、ワイヤーを張ってください。  
スクレーパーと後ローラーのすき間が、2.0 - 3.0 mm (0.079 - 0.118 in) であれば適正です。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。  
・ワイヤースクレーパー



リヤスクレーパーの調整 (ワイヤータイプ) \_001

1	スクレーパー
2	後ローラー
3	ナット
4	ロックナット
A	2.0 - 3.0 mm (0.079 - 0.118 in)

- ・ワイヤースクレーパー (CR ブラシ同時装着タイプ)



リヤスクレーパーの調整 (ワイヤータイプ) \_002

1	スクレーパー
2	後ローラー
3	CR ブラシ
4	ナット
5	ロックナット
A	2.0 - 3.0 mm (0.079 - 0.118 in)

# 取り扱い説明

## エンジン始動・停止方法

### エンジン始動・停止

#### エンジン始動手順

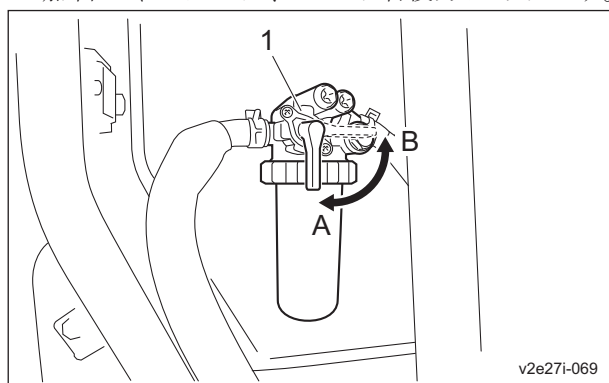
#### ⚠ 注意

エンジンを始動する前に機械や周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

#### 重要

スターターを連続して作動させられる時間は、最長 15 秒です。  
始動しないときは、30 - 60 秒間バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを開きます。  
燃料フィルターは、シート右後方にあります。



エンジン始動手順\_001

1	燃料フィルター
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

2. 運転席に着座します。
3. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
4. リール回転レバーが「停止」の位置になっていることを確認してください。
5. 走行ペダルが中立の位置にあることを確認してください。

6. スロットルレバーを低速側から半分程度高速側へ動かします。

#### 重要

サーモスタートランプは、設定時間後に消灯しますが、ランプの消灯とグロープラグの発熱は関連がありません。

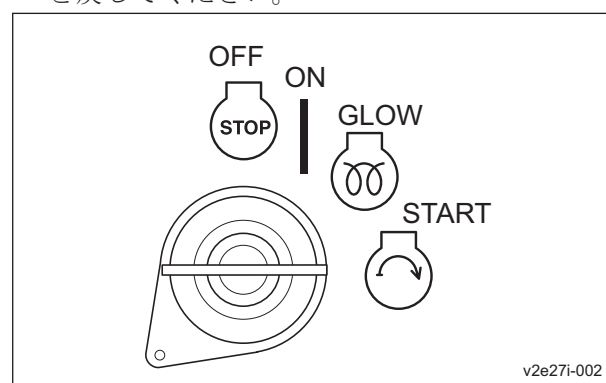
ランプ消灯後もキーが「グロー」の位置であれば発熱しています。サーモスタートランプの点灯時間は 5 秒です。

7. エンジンキーを「グロー」の位置にします。
8. グロープラグが発熱し、サーモスタートランプが点灯したことを確認してください。

#### 重要

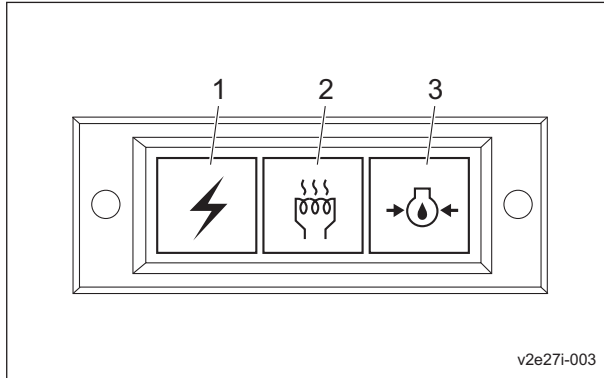
エンジンキーを「START」位置から、「ON」の位置へ急激に戻すと、機器の損傷につながります。

9. サーモスタートランプが消えたら、速やかにエンジンキーを「START」位置にします。
10. スターターが回転し、エンジンが始動し始めたらエンジンキーを「ON」の位置へゆっくりと戻してください。



エンジン始動手順\_002

11. チャージランプとエンジンオイルプレッシャーランプが消えることを確認してください。  
消えない場合は、エンジンを停止し、点検整備を行ってください。



エンジン始動手順\_003

1	チャージランプ
2	サーモスタートランプ
3	オイルプレッシャーランプ

12. スロットルレバーを低速側にして1 - 2分間、暖気運転します。  
13. スロットルレバーを徐々に高速側へ動かします。

### エンジン停止手順

1. 走行ペダルを中立にします。
2. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけます。
3. リール回転レバーを「停止」の位置にします。
4. すべてのモアユニットを上げ、落下防止用ストップバルブをストップ位置にします。
5. スロットルレバーを低速側にし、1 - 2分間空運転します。
6. エンジンキーを「OFF」の位置にします。
7. エンジンが停止したことを確認してください。
8. エンジンキーを抜き取ります。
9. 運転席から降ります。
10. 燃料コックを閉じます。  
燃料コックは、燃料タンクの横にあります。

### 安全装置について

この機械には、エンジン始動・停止に対する安全装置が装着されています。

1. エンジンを始動するときは、以下の4つの条件が1つでも満たされていないと安全装置が働き、エンジンは始動しません。
  - ・シートに着座する。
  - ・駐車ブレーキをかける。
  - ・リール回転レバーを「停止」の位置にする。

- ・ 走行ペダルの位置を中立にする。
2. 以下の条件の場合は、安全装置が働き、エンジンが停止します。
    - ・ 駐車ブレーキをかけずにシートから離れる。
    - ・ リールカッターが正回転中にシートから離れる。
    - ・ 駐車ブレーキをかけ、シートから離れるときに走行ペダルを動かす。

### 警報装置について

この機械には、オーバーヒートの警報装置が装着されています。

1. エンジン内部の水温が 105 ° C (221 ° F) を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)

# 取り扱い説明

## 操作方法

### 機械を離れるときの注意

#### ⚠ 注意

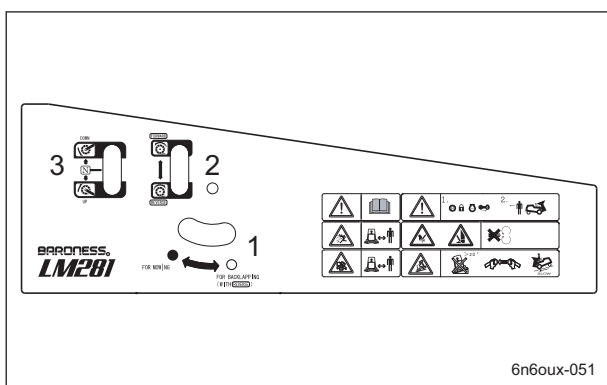
ブレーキの効きが悪いときは、輪止めを使用し、固定してください。

#### ⚠ 注意

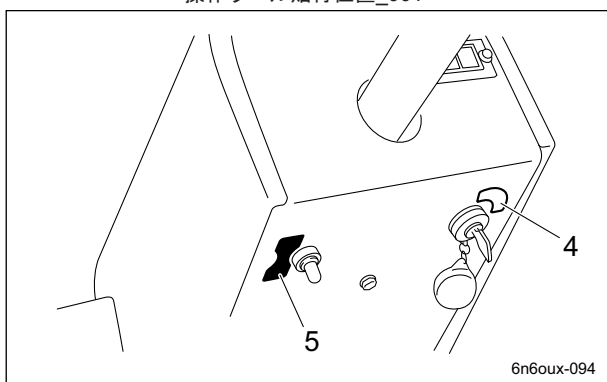
傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

1. 機械を平らな所に停止させてください。
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. エンジンを停止してください。
4. キーを抜いてください。
5. 機械から離れてください。

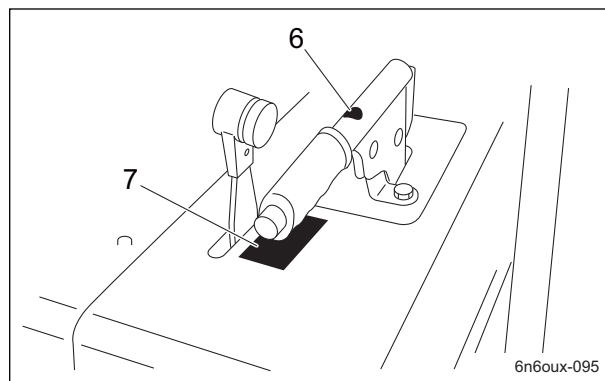
### 操作ラベル貼付位置



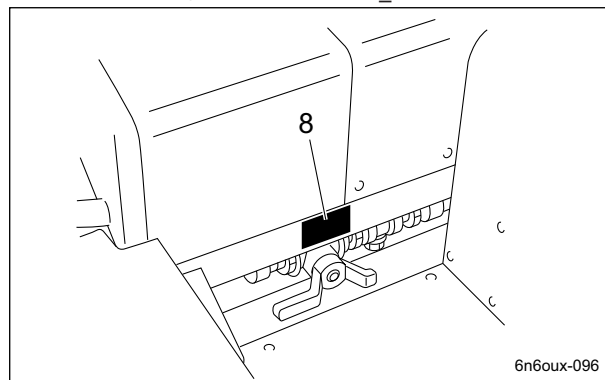
操作ラベル貼付位置\_001



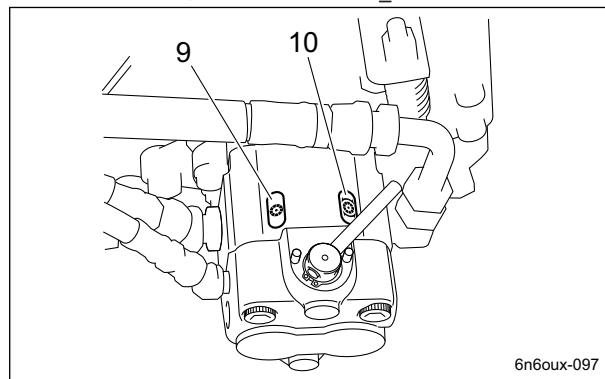
操作ラベル貼付位置\_002



操作ラベル貼付位置\_003



操作ラベル貼付位置\_004



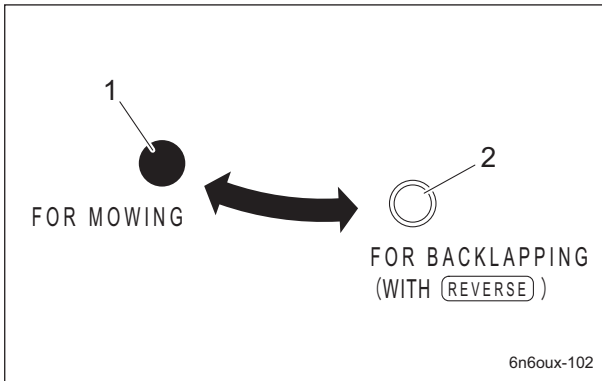
操作ラベル貼付位置\_005

1	リール回転レバーストッパーマーク
2	リール回転マーク
3	モアユニット昇降マーク
4	キースイッチラベル
5	ライトスイッチマーク
6	ブレーキマーク
7	エンジン回転マーク
8	ストップバルブ操作マーク
9	リール停止マーク
10	リール回転マーク

## 操作ラベルの説明

### リール回転レバーストッパーマーク

リール回転レバーストッパーマーク  
リール回転レバーストッパーの刈り込み時・  
バックラッピング時の位置を示しています。

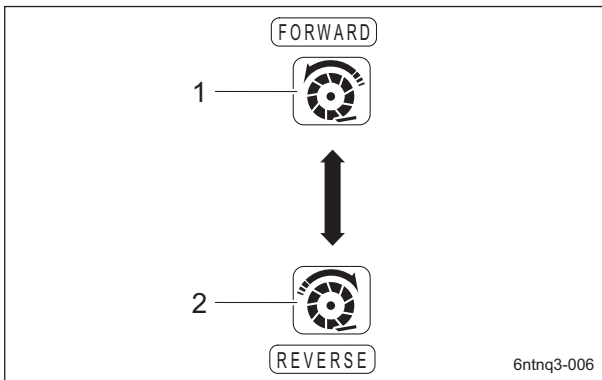


リール回転レバーストッパーマーク\_001

1	刈り込み時
2	バックラッピング時

### リール回転マーク

リール回転マーク  
リールカッターの正転（刈り込み回転）・逆転  
（バックラッピング回転）を示しています。

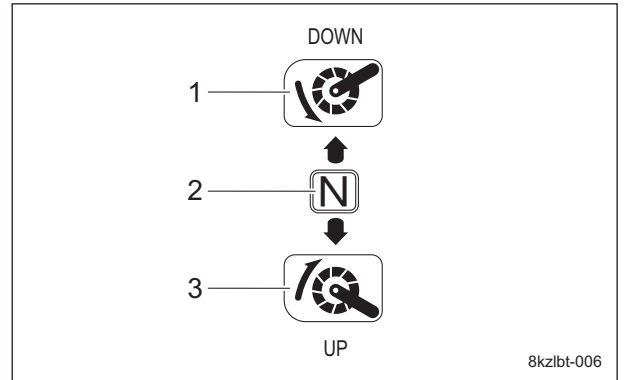


リール回転マーク\_001

1	正転（刈り込み回転）
2	逆転（バックラッピング回転）

### モアユニット昇降マーク

モアユニット昇降マーク  
モアユニットの上昇・下降を示しています。

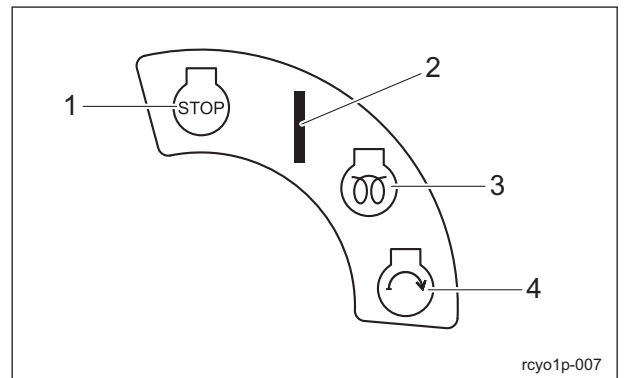


モアユニット昇降マーク\_001

1	下降
2	中立
3	上昇

### キースイッチラベル

K4209001190  
キースイッチラベル  
キースイッチの位置を示しています。



キースイッチラベル\_001

1	OFF
2	ON
3	GLOW
4	START

# 取り扱い説明

## ライトスイッチマーク

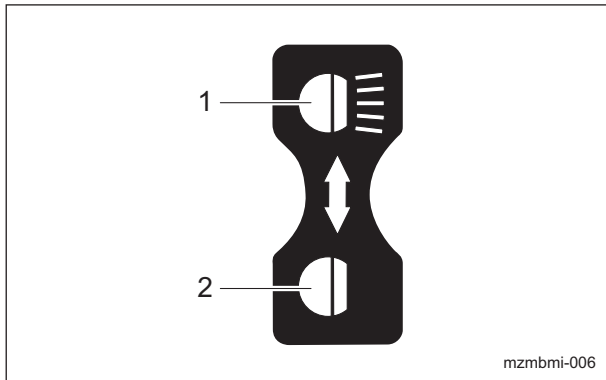
参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。

K4203001410

ライトスイッチマーク

ライトの切り替えを示しています。



ライトスイッチマーク\_001

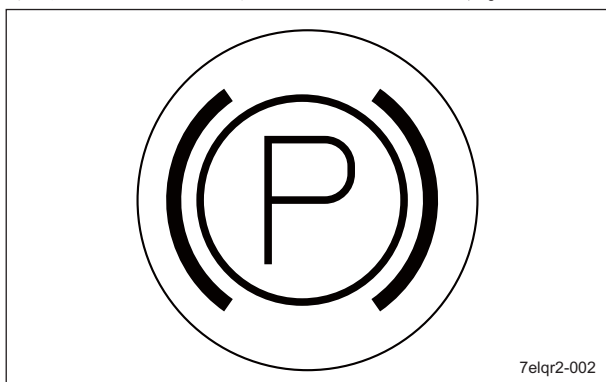
1	点灯
2	消灯

## ブレーキマーク

K4209001200

ブレーキマーク

駐車ブレーキのロックを示しています。



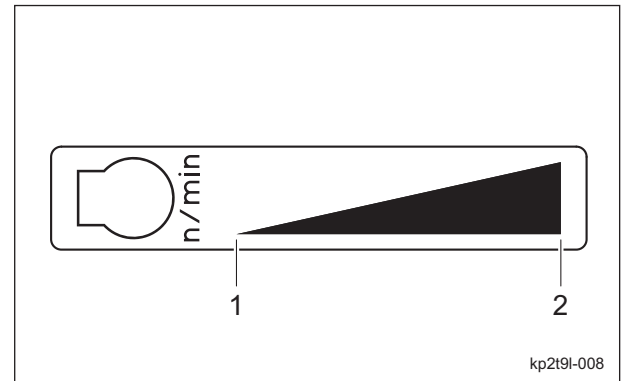
ブレーキマーク\_001

## エンジン回転マーク

K4203001220

エンジン回転マーク

エンジン回転速度の低速・高速を示しています。



エンジン回転マーク\_001

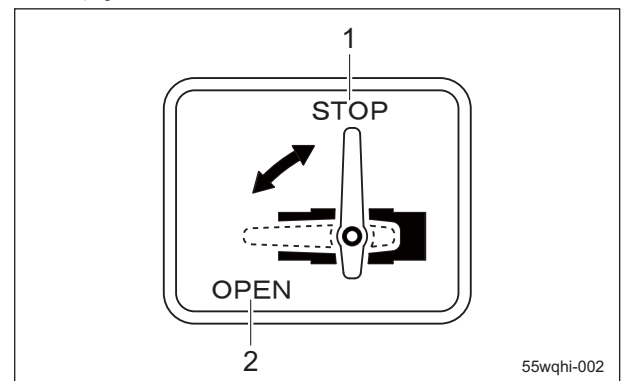
1	低速
2	高速

## ストップバルブ操作マーク

K4203001290

ストップバルブ操作マーク

ストップバルブのストップ・オープンを示しています。



ストップバルブ操作マーク\_001

1	ストップ
2	オープン

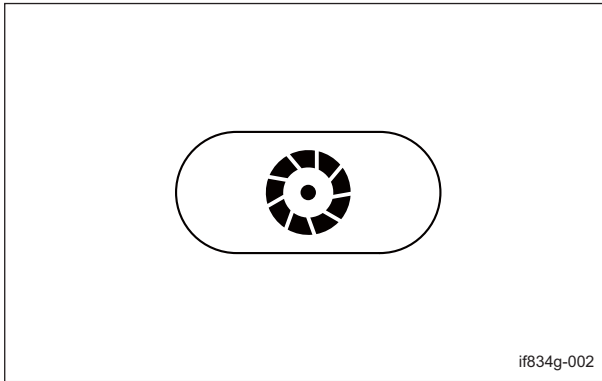


## リール停止マーク

K4203001310

リール停止マーク

リールカッターの停止を示しています。



if834g-002

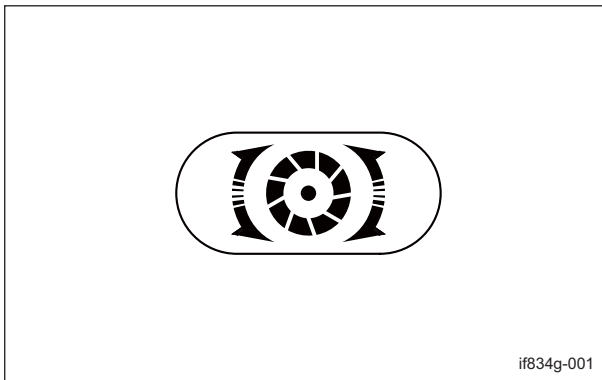
リール停止マーク\_001

## リール回転マーク

K4203001300

リール回転マーク

リールカッターの回転を示しています。



if834g-001

リール回転マーク\_001

## ライトスイッチ



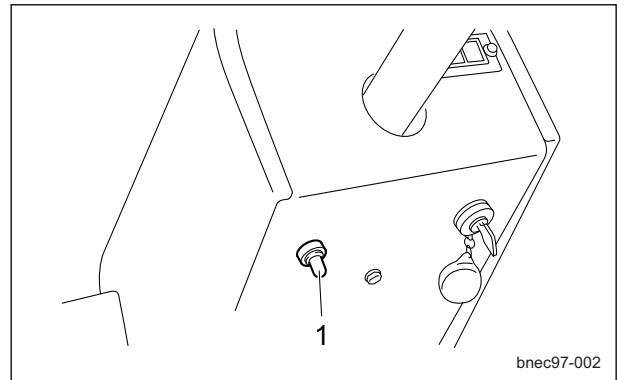
ライトは補助灯です。

夜間や視界の悪いときは走行、作業を行わないでください。

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。ライトスイッチは、メーターパネルの左下にあります。

ライトは、スイッチを上側に倒すと点灯し、スイッチを下側に倒すと消灯します。



ライトスイッチ\_001

1 ライトスイッチ

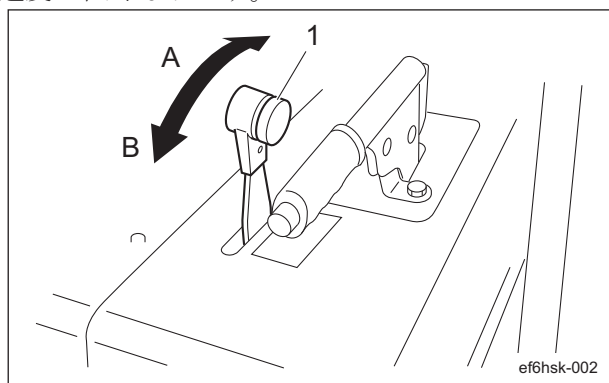
参考：

キースイッチが「OFF」のときは点灯しません。

# 取り扱い説明

## スロットルレバー

スロットルレバーは、運転席の左側にあり、エンジン回転速度の高低をレバーで調整します。スロットルレバーは、高速側にするとエンジン回転速度が高くなり、低速側にするとエンジン回転速度が低くなります。



スロットルレバー\_001

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

## モアユニット昇降レバー

### ⚠ 注意

モアユニットの昇降時には、周囲に人がいないことを確認してください。

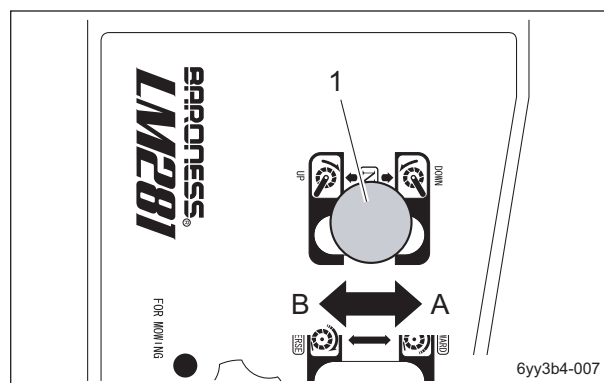
### ⚠ 注意

エンジン停止時でもモアユニット昇降レバーを下降側（DOWN）に倒すと、モアユニットが下がりますので注意してください。

### 重要

モアユニット昇降レバーを操作するときは、必ずストップバルブをオープン位置にしてください。

モアユニット昇降レバーは運転席の右側にあり、モアユニットをレバーで上げ下げします。レバーを下降側（DOWN）に倒すと、すべてのモアユニットが下がり、上昇側（UP）に倒すと、すべてのモアユニットが上がります。



モアユニット昇降レバー\_001

1	モアユニット昇降レバー
A	下降
B	上昇

### 参考：

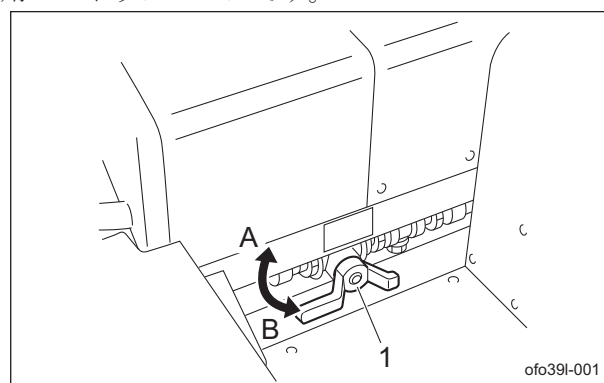
リール回転レバーが「FORWARD」の状態でも、モアユニットを上げるとリールの回転は停止します。

## ストップバルブ

### ⚠ 注意

移動時および、モアユニットを上げたままエンジンを停止する場合は、必ずストップバルブをストップの位置にしてください。

ストップバルブは、運転席の右下にあります。モアユニットを上げた際の#1・2・3モア落下防止用のストップバルブです。



ストップバルブ\_001

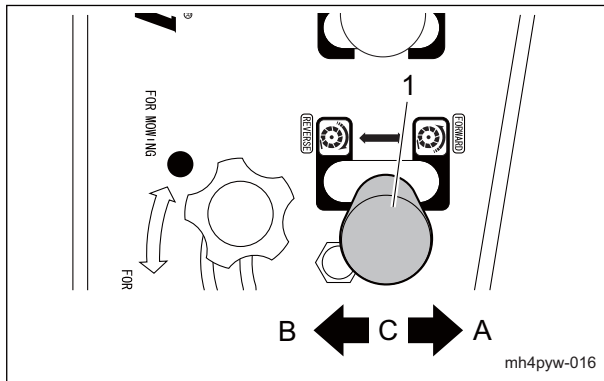
1	ストップバルブ
A	ストップ
B	オープン

## リール回転レバー

### ⚠ 注意

リール回転レバーは、刈り込み作業、バックラッピング作業の直前にいずれかの位置に倒し、作業時以外の場合は、必ず「停止（中立）」の位置にしてください。

リール回転レバーは、運転席の右側にあり、モアユニットのリールカッターを回転させます。すべてのモアユニットのリールカッターは、リール回転レバーを「正転」側に倒すと刈り込み回転し、「逆転」側に倒すとバックラッピング回転します。



リール回転レバー\_001

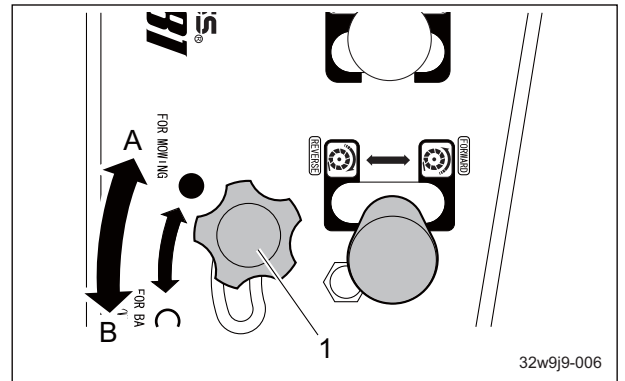
1	リール回転レバー
A	正転（刈り込み回転）
B	逆転（バックラッピング回転）
C	停止（中立）

## リール回転レバーストッパー

### ⚠ 注意

刈り込み作業前に、必ずストッパーのツマミが締められているか確認してください。

リール回転レバーストッパーは、運転席の右側にあり、リール回転レバーの誤操作を防止するためのものです。バックラッピング時以外は、ストッパーのツマミを緩め、刈り込み時の位置にしてツマミを締めてください。



リール回転レバーストッパー\_001

1	リール回転レバーストッパー
A	刈り込み時
B	バックラッピング時

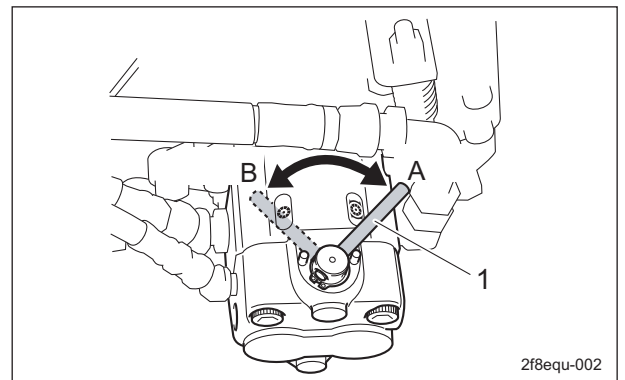
## リール回転・停止切り替えレバー

### ⚠ 注意

リール回転・停止切り替えレバーを動かす際は、必ずリール回転レバーを「停止」の位置にしてください。

リール回転・停止切り替えレバーは、各モアユニットに取り付けてあるリールモーターにあり、刈り込み作業および、バックラッピング作業を行う際に使用します。

刈り込み作業または、バックラッピング作業を行うモアユニットのレバーのみを「回転」の位置にし、その他のモアユニットのレバーは「停止」の位置にしてください。



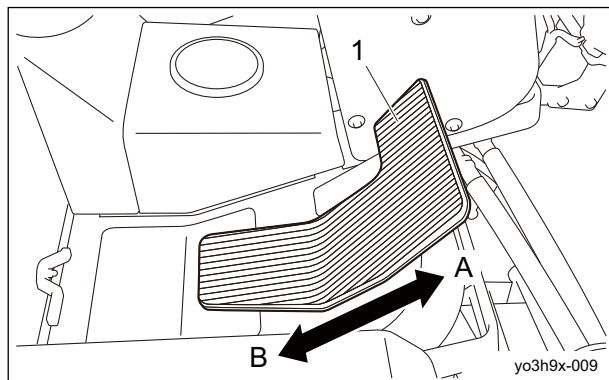
リール回転・停止切り替えレバー\_001

1	リール回転・停止切り替えレバー
A	回転
B	停止

# 取り扱い説明

## 走行ペダル

走行ペダルは、右足元にあります。  
前進側を踏み込むと前に進み、後進側を踏み込むと後ろに進みます。

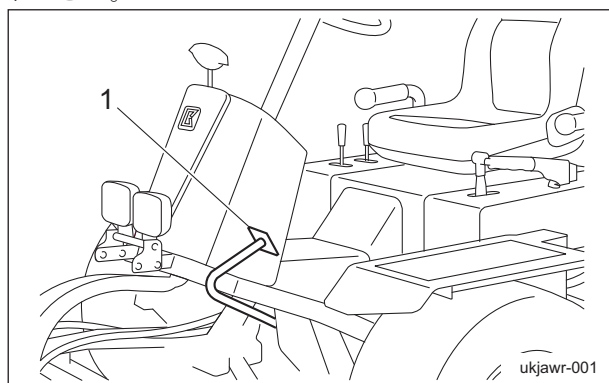


走行ペダル\_001

1	走行ペダル
A	前進
B	後進

## ブレーキペダル

ブレーキペダルは、左足元にあります。  
停止する際は、ブレーキペダルを強く踏み込んでください。



ブレーキペダル\_001

1	ブレーキペダル
---	---------

## 駐車ブレーキレバー

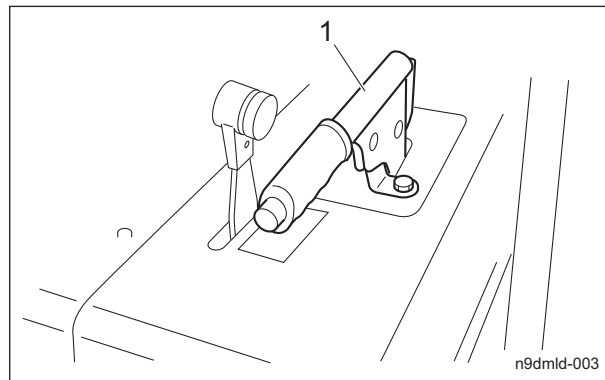
### 注意

傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

### 重要

走行する際は、必ず駐車ブレーキを解除してから走行してください。  
ブレーキや油圧機器が故障します。

駐車ブレーキレバーは、運転席の左側にあります。  
駐車時は、ブレーキペダルを踏みながら、駐車ブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。  
解除する際は、プッシュボタンを押しながら下ろし、確実に戻してください。



駐車ブレーキレバー\_001

1	駐車ブレーキレバー
---	-----------

## ボンネット

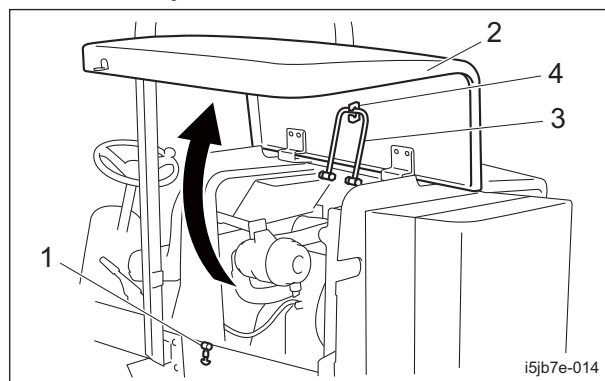
### 注意

風が強い場所では、ボンネットを開けないでください。

### 注意

ボンネットの開閉は、手を挟まないように注意してください。

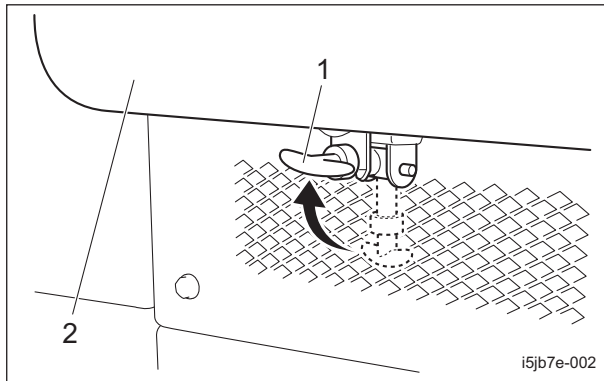
1. ゴムキャッチを外し、ボンネットを引き上げます。
2. ボンネット支えをカバー内側の受け金に引っ掛けます。  
ボンネットが閉じないことを確認し、手を放してください。



ボンネット\_001

1	ゴムキャッチ
2	ボンネット
3	ボンネット支え
4	受け金

3. ボンネットを閉じる際は、ボンネット支えを受け金から外し、ゆっくりと閉じます。
4. ゴムキャッチを確実にはめてください。



ボンネット\_002

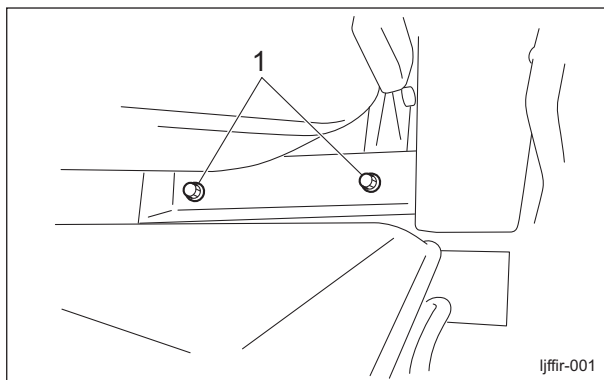
1	ゴムキャッチ
2	ボンネット

## シート下カバー

### ⚠ 注意

カバーの開閉は、手を挟まないように注意してください。

1. シートの前後調整を一番前にします。
2. シートの後ろにあるボルトを2本取り外します。

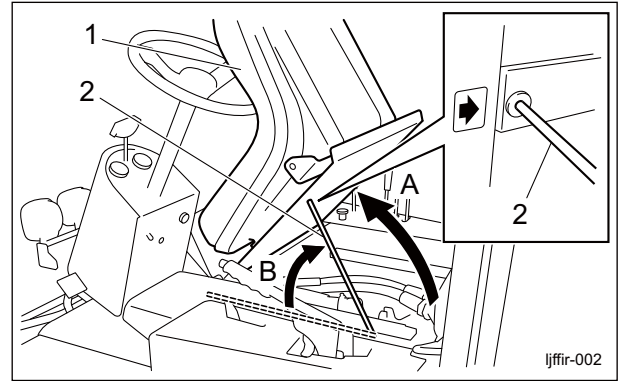


シート下カバー\_001

1	ボルト
---	-----

3. シートを一番後ろにします。
4. シートを持ち上げます。

5. シート下カバーを確実にシート支えで固定してください。

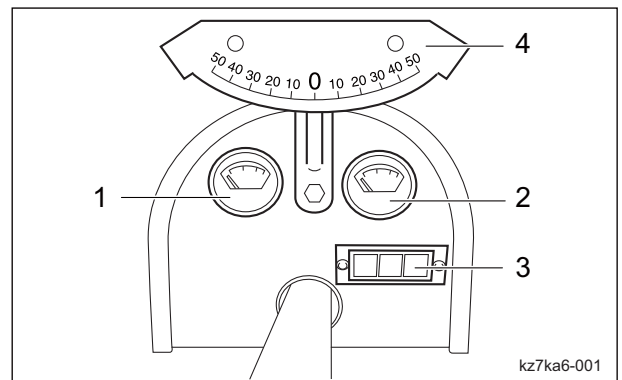


シート下カバー\_002

1	シート
2	シート支え
A	手順1
B	手順2

## 計器

### 操作パネルの計器説明



操作パネルの計器説明\_001

1	水温計
2	燃料計
3	パイロットランプ (チャージランプ・サーモスタートランプ・オイルプレッシャーランプ)
4	角度計

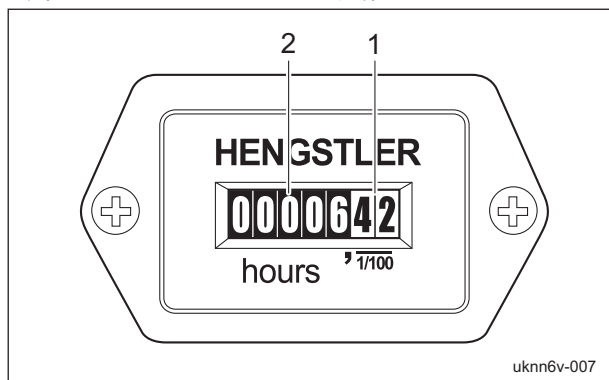
# 取り扱い説明

## アワーメーター

アワーメーターはエンジンの総運転時間を示します。

36秒経過すると一目盛（白地に赤数字）上がり、1時間経過すると次の目盛（黒地に白数字）が一目盛上がります。

1/100ホイール・・・白地に赤数字  
時間ホイール・・・黒地に白数字



アワーメーター\_001

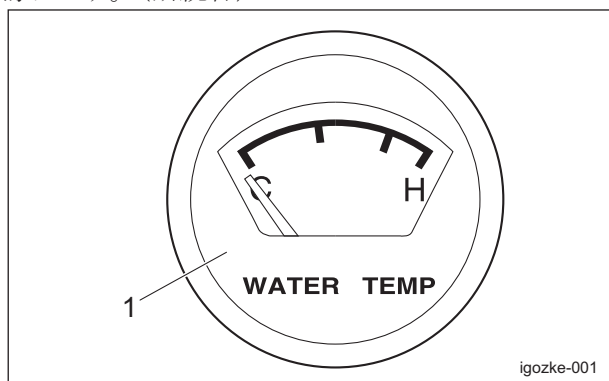
1	1/100 ホイール
2	時間ホイール

## 水温計

水温計は、操作パネルにあります。エンジン内部の水温を示す計器です。運転中に水温計が「H」付近まで上昇した場合は、オーバーヒート状態です。

エンジンを無負荷にし、アイドリング状態で5分間運転した後、エンジンを停止して点検・整備をしてください。

水温が 105 ° C (221 ° F) を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)

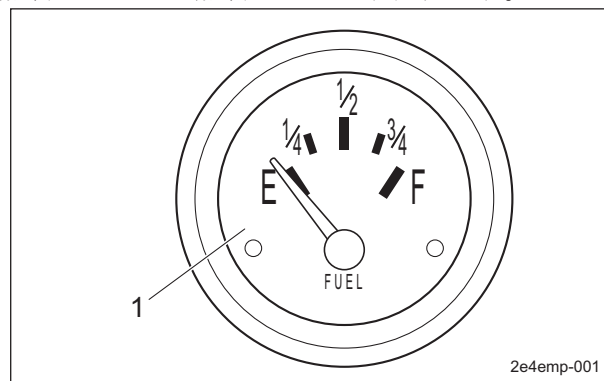


水温計\_001

1	水温計
---	-----

## 燃料計

燃料計は、操作パネルにあります。燃料タンク内の燃料の量を示す計器です。



燃料計\_001

1	燃料計
---	-----

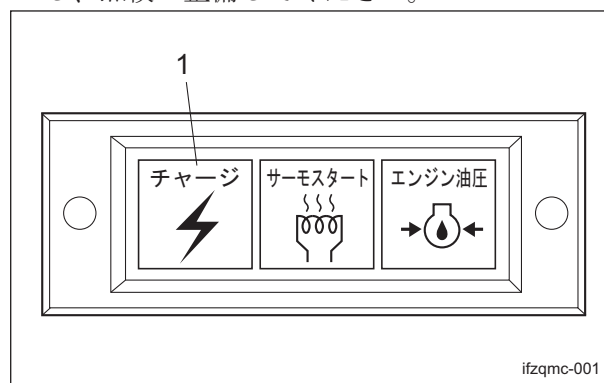
## パイロットランプ

### チャージランプ

チャージランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内左側にあります。

エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にオルタネーターが正常に運転されると消灯します。

運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。

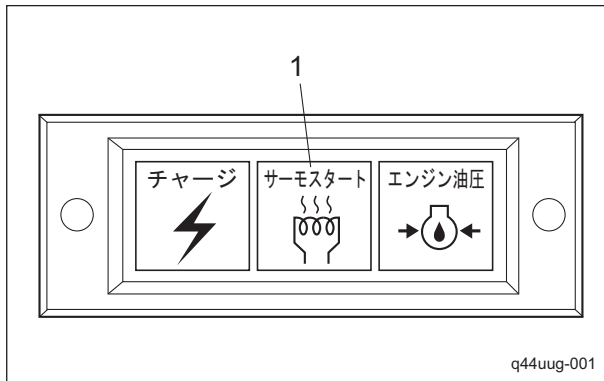


チャージランプ\_001

1	チャージランプ
---	---------

## サーモスタートランプ

サーモスタートランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内中央にあります。  
エンジンキーの位置が「グロー」のとき、グロープラグの発熱と同時に点灯します。  
グローランプタイマーにより、サーモスタートランプの点灯が制御され、設定時間経過後に消灯します。  
点灯時間は、予熱に必要な目安であり、一定時間（5秒）の設定です。

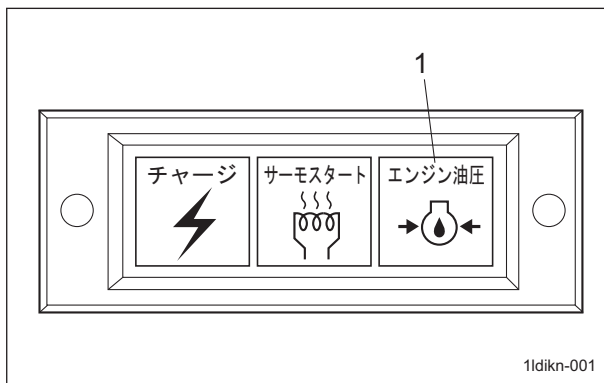


サーモスタートランプ\_001

1	サーモスタートランプ
---	------------

## オイルプレッシャーランプ

オイルプレッシャーランプは、操作パネルにあるパイロットランプ内右側にあります。  
エンジン始動前にエンジンキーの位置「ON」で点灯し、始動後にエンジン油圧（オイルプレッシャー）が正常に発生すると消灯します。  
運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを停止し、点検・整備してください。



オイルプレッシャーランプ\_001

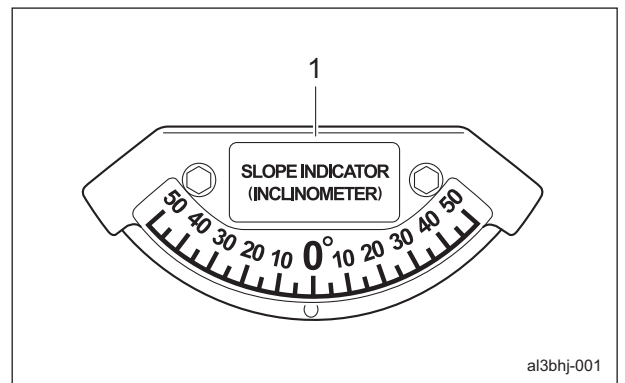
1	オイルプレッシャーランプ
---	--------------

## オーバーヒート警告ブザー

エンジン内部の水温が 105 ° C (221 ° F) を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)  
エンジンを無負荷にし、アイドリング状態で5分間運転した後、エンジンを停止して点検・整備をしてください。

## 角度計

参考：  
この機能は仕様により、無い場合があります。  
角度計は、操作パネルにあります。  
機械の角度状態を示す計器です。



角度計\_001

1	角度計
---	-----



# 取り扱い説明

## 移動

### 走行操作

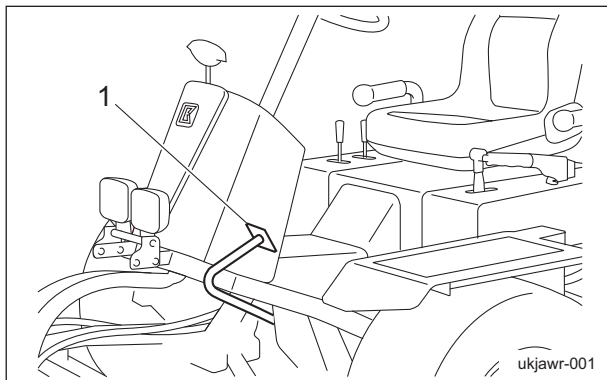
#### ⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

#### 重要

急発進・急停止を行わないでください。  
油圧機器が破損したり、油漏れが発生します。

1. エンジンを始動します。  
「エンジン始動手順」(Page 4-20)
2. すべてのモアユニットが上がっていて、落下防止用ストップバルブがストップ位置にあることを確認してください。
3. ブレーキペダルを踏み、プッシュボタンを押しながら駐車ブレーキレバーを戻します。



走行操作\_001

1 ブレーキペダル

4. 走行ペダルをゆっくりと踏み込んでください。
5. 機械は走行を始めます。
6. 走行ペダルから足を離してブレーキペダルを踏むと、機械は停止します。

### けん引方法

エンジントラブルなどで自走できなくなった場合は、以下の方法で移動できます。

#### 重要

けん引時以外は、アンロードバルブに触れないでください。

#### 重要

アンロードバルブのニードル弁は、2回転以上回さないでください。

#### 重要

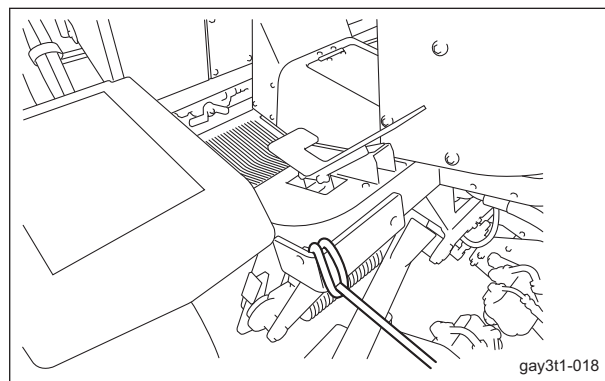
エンジンは、必ずアンロードバルブを閉じてから始動してください。

#### 重要

けん引時は、3.0 km/h 以下の速度で移動してください。  
また、3分以上けん引しないでください。  
けん引速度が速すぎたり、過度に動かすとポンプやモーターが損傷します。

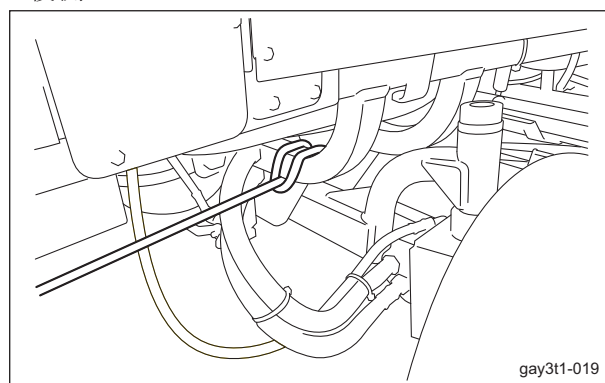
1. エンジンを停止します。  
「エンジン停止手順」(Page 4-21)
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. 輪止めをします。
4. ロープを掛けてください。

前側



けん引方法\_001

後側



けん引方法\_002

5. センターカバー後を取り外してください。

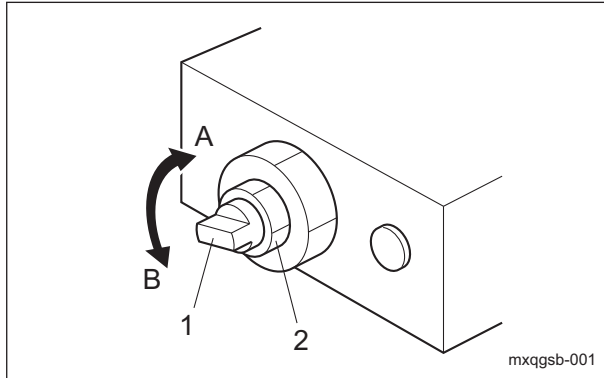
#### 重要

必ず、2か所のアンロードバルブを開いてからけん引してください。  
油圧機器が故障します。

6. ロックナットを緩めます。



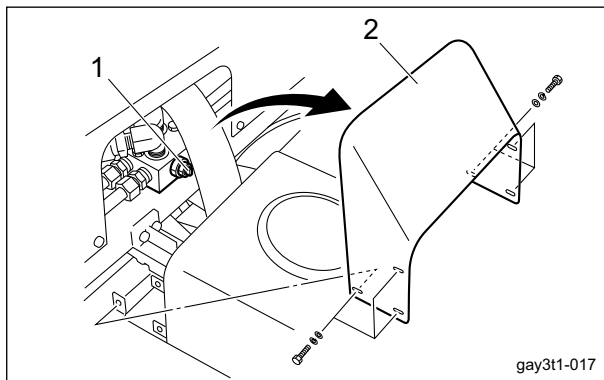
7. 中心にあるニードル弁を緩め、アンロードバルブを開きます。



けん引方法\_003

1	ニードル弁
2	ロックナット
A	締まる
B	緩む

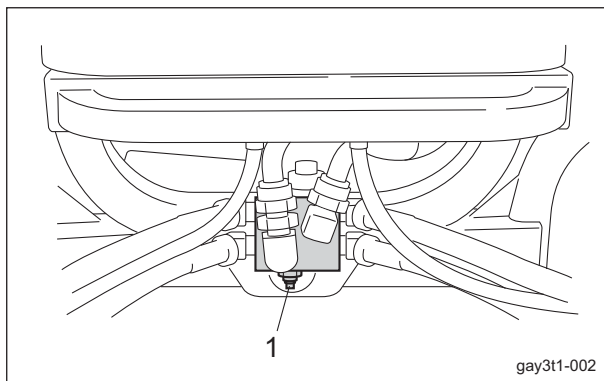
8. 座席下部のアンロードバルブのニードル弁を反時計方向に1回転させます。



けん引方法\_004

1	ニードル弁
2	センターカバー後

9. フレーム後方部にあるアンロードバルブのニードル弁を反時計方向に1回転させます。



けん引方法\_005

1	ニードル弁
---	-------

10. センターカバー後を取り付けてください。

11. 輪止めを外します。  
12. 駐車ブレーキを解除します。

#### 警告

けん引時は、常にブレーキペダルの上に足を置いて、いつでもブレーキペダルを踏んで止まれるようにしてください。

13. ゆっくりとけん引します。

### 刈り込み

#### 刈り込み操作

#### 警告

急発進・急停車は、絶対に行わないでください。

#### 注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。

凸凹面の刈り込み作業は、エンジン回転は一定のまま、刈り込み速さを遅くして行ってください。

#### 注意

モアユニットが完全に上がる前にモアユニット昇降レバーの操作をやめると、リール回転が停止しない場合がありますので、注意してください。リール回転は、近接センサーが感知したモアユニットの位置に基づいて「入」「切」されます。

#### 注意

グラスキャッチャーの取り付け、取り外しを行うときは、エンジンを停止してください。

#### 重要

急発進・急停止を行わないでください。油圧機器が破損したり、油漏れが発生します。

- すべてのモアユニットのリール回転・停止切り替えレバーを「回転」の位置にします。
- エンジンを始動します。  
「エンジン始動手順」(Page 4-20)
- すべてのモアユニットが上がっていて、落下防止用ストップバルブがストップ位置にあることを確認してください。
- ブレーキペダルを踏み、プッシュボタンを押しながら駐車ブレーキレバーを戻します。
- 刈り込み操作直前に落下防止用ストップバルブをオープン位置にします。

## 取り扱い説明

6. スロットルレバーを高速側にし、エンジン回転速度を最高速にします。
  7. モアユニット昇降レバーを下降側（DOWN）にし、モアを下げます。
  8. リール回転レバー正転側にし、すべてのモアユニットのリールカッターを刈り込み回転させます。
  9. 走行ペダルを踏み、作業を始めます。
- 参考：  
作業中はモアユニットの上げ下げに連動し、リールカッターも回転・停止します。

### 8. 格納場所

- ・ 雨のかからない乾燥した場所で、カバーなどをかけてください。

## 運搬

### 運搬方法

この機械をトラックやトレーラーに積載して運搬する場合は、進行方向に対して機械を後進で積み込み、降ろす場合は前進で行ってください。機械にルーフが取り付けられている場合は、ルーフを取り外してください。ルーフが風圧で破損するおそれがあります。

## 保管

### 長期保管

この機械を長期保管するときは、下記の指示に従ってください。

1. 清掃
  - ・ 車両本体およびエンジンなどの泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
2. オイル交換
  - ・ エンジンオイル、油圧作動油、エレメントの点検と交換をしてください。
3. 注油
  - ・ 各注油箇所にグリース注入、塗布と注油をしてください。
4. バッテリー
  - ・ バッテリーのマイナス配線を取り外してください。
5. 燃料
  - ・ 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
6. タイヤの空気圧
  - ・ 標準よりやや高めにし、湿気から守るために板の上に載せてください。
7. モアユニット
  - ・ この機械を格納する際は、すべてのモアユニットを下げてください。ただし、モアユニットを上げた位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。

メンテナンス上の注意 .....	Page 5-2
メンテナンススケジュール .....	Page 5-3
調整値 .....	Page 5-4
ジャッキアップ .....	Page 5-5
ジャッキアップについて .....	Page 5-5
ジャッキアップポイント .....	Page 5-5
グリースアップ .....	Page 5-6
グリースアップについて .....	Page 5-6
グリースアップ位置 .....	Page 5-6
注油 .....	Page 5-10
注油について .....	Page 5-10
注油位置 .....	Page 5-10
メンテナンスの方法 .....	Page 5-11
バックラッピング .....	Page 5-11
リールカッターの研磨 .....	Page 5-13
リールカッターの交換 .....	Page 5-14
ベッドナイフの交換 .....	Page 5-14
タイヤの脱着 .....	Page 5-15
ベルトの張り調整 .....	Page 5-16
駐車ブレーキの調整 .....	Page 5-16
ブレーキの調整 .....	Page 5-17
ピストンポンプの中立位置の調整 .....	Page 5-17
冷却水の交換 .....	Page 5-18
油圧作動油の交換 .....	Page 5-19
油圧オイルフィルターの交換 .....	Page 5-20
エアクリーナーの交換 .....	Page 5-21
エンジンオイルの交換 .....	Page 5-22
エンジンオイルフィルターの交換 .....	Page 5-23
燃料フィルターエレメントの交換 .....	Page 5-23
等速ジョイントの交換 .....	Page 5-24
ヒューズの交換 .....	Page 5-24

# メンテナンス

---

## メンテナンス上の注意

### 警告

本書に記載する「メンテナンス」の章は、専門知識のある整備士が行うべきメンテナンスの項目について説明しています。  
オーナーは、専門知識のある整備士がこの機械のメンテナンスを実施するように指導してください。

### 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

### 重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

### 重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。  
純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従ってメンテナンスをしてください。

## メンテナンススケジュール

LM281/283/285

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換(初回)

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	8hごと	10hごと	50hごと	100hごと	200hごと	250hごと	400hごと	500hごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	備考
H エンジン	各部の締め付け	○													
	燃料	○													
	エンジンオイル	○		●		△									8h (初回)
	エンジンオイルフィルター	○				●	△								50h (初回)
	ラジエーター	○													
	オイルクーラー	○													
	冷却水	○											△		
	ファンベルト	○										△			
	バッテリー	○											△		
	バッテリー液	○												△	
	外観清掃		○												
車 本体	各部の締め付け	○													
	ホイール取付ボルトの締め付け					○	○								初回 50h、その後 100hごと
	インターロックシステム	○													
	電気配線											○			
	リールカッター	○													「リールカッターとベッドナイフの点検」参照
	ベッドナイフ	○													「リールカッターとベッドナイフの点検」参照
	作業高さ(刈高)	○													
	刃合わせ	○													
	グリースアップ・注油					○									
	モアユニット油圧モーター軸のグリースの塗布									○					
	タイヤ	○													「タイヤの点検」参照
	ブレーキ	○													「ブレーキの点検」参照

# メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	8hごと	10hごと	50hごと	100hごと	200hごと	250hごと	400hごと	500hごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	備考
車両本体	ブレーキワイヤー	○						△							「ワイヤーの点検」参照
	スロットルワイヤー	○						△							「ワイヤーの点検」参照
	リールカバー	○													
	油漏れ	○													
	油圧作動油	○					●				△				100h (初回)
	油圧オイルフィルター						●				△				100h (初回)
	油圧ホース (可動部)	○											△		
	操舵に関わる油圧ホース (可動部)												△		
	油圧ホース (固定部)	○												△	
	エアクリーナー	○							△			△			
	電磁ポンプフィルター	○							△						
	燃料ストレーナー						○					△			
	燃料パイプ	○													
外観清掃		○													

上記以外のメンテナンススケジュールについては、エンジンの取扱説明書を参照ください。

消耗品については、保証値ではありません。

ステアリングシリンダーの油圧ホースおよび操舵輪の油圧モーターの油圧ホースは、必ず2年で交換してください。

## 調整値

カッター調節スプリング	40.0 mm (1.575 in.)	スプリングコイル長さ
-------------	---------------------	------------

## ジャッキアップ

## ジャッキアップポイント

## ジャッキアップについて

**警告**

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず  
輪止めなどをして、機械が動かないようにしてく  
ださい。

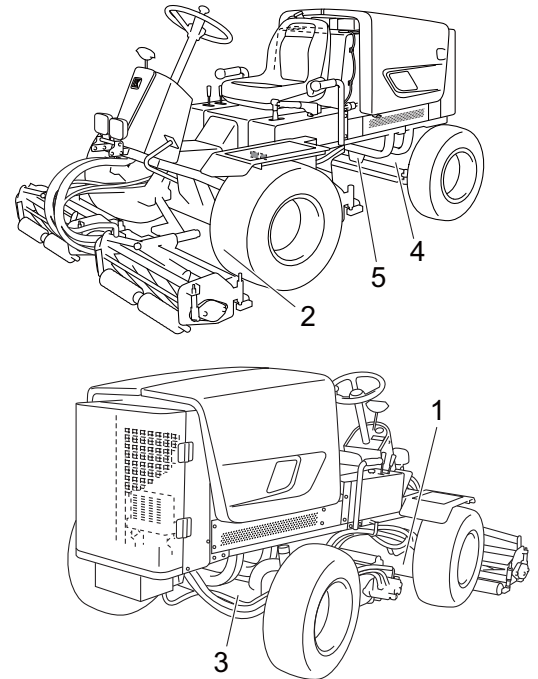
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に  
駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作  
業の妨げになる障害物を取り除いてください。  
必要に応じ、適切なチェンブロックやホイス  
ト、およびジャッキを使用してください。

持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切  
なブロックを使用し、確実に支えてください。  
ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確  
実に支えられていない場合は、機械が動いたり、  
落ちたりするおそれがあります。  
人身事故の原因となります。

**重要**

指示された位置以外では、ジャッキアップしな  
いでください。  
フレームや部品が破損します。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキ  
アップポイントに記載してある位置で行ってくだ  
さい。

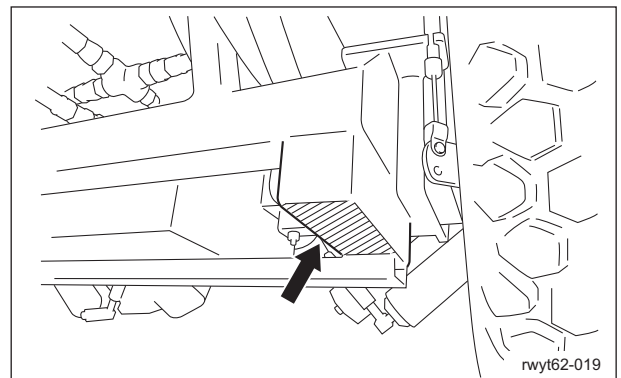


rwy62-073

ジャッキアップポイント\_001

1	前部右側フレーム
2	前部左側フレーム
3	後部右側ピボット
4	後部左側ピボット
5	後部中央フレーム

## 1. 前部右側フレーム

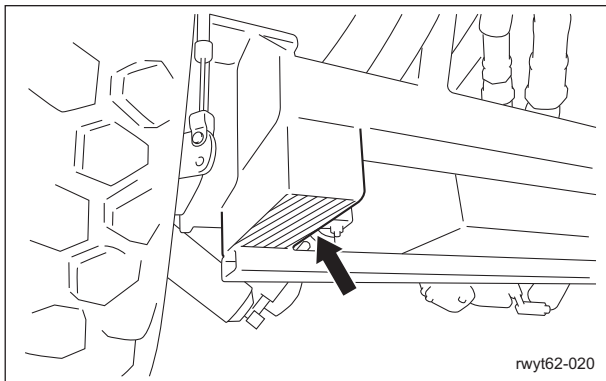


rwy62-019

ジャッキアップポイント\_002

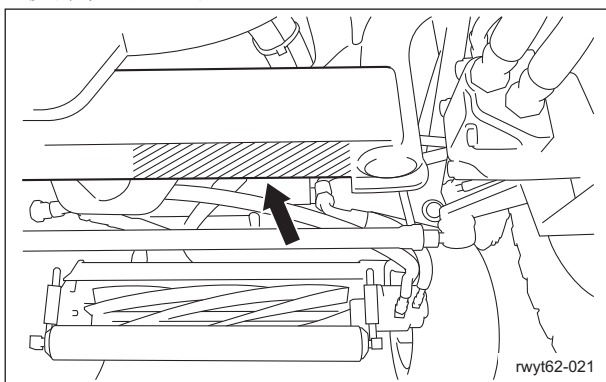
# メンテナンス

## 2. 前部左側フレーム



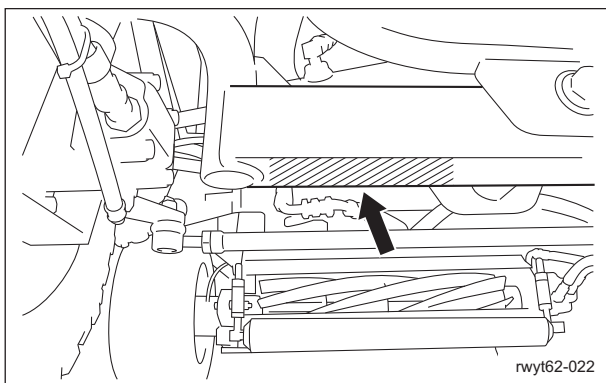
ジャッキアップポイント\_003

## 3. 後部右側ピボット



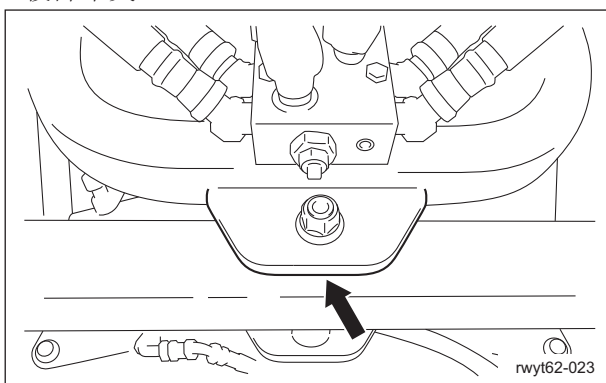
ジャッキアップポイント\_004

## 4. 後部左側ピボット



ジャッキアップポイント\_005

## 5. 後部中央フレーム



ジャッキアップポイント\_006

## グリースアップ

### グリースアップについて

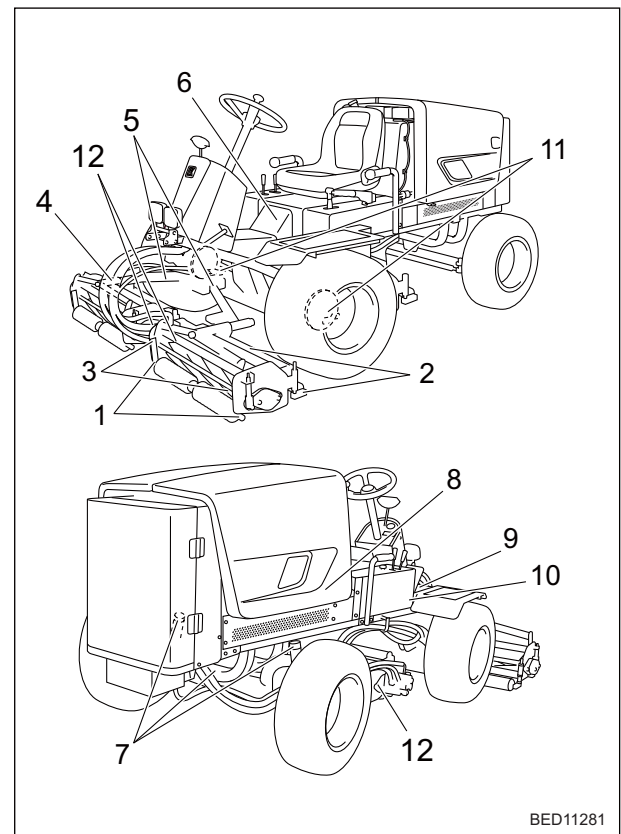
可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

### グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

50時間ごとにグリースアップしてください。ただし、その他に指定する場所や指定する時間がある場合は、その指示に従ってグリースアップしてください。



グリースアップ位置\_001

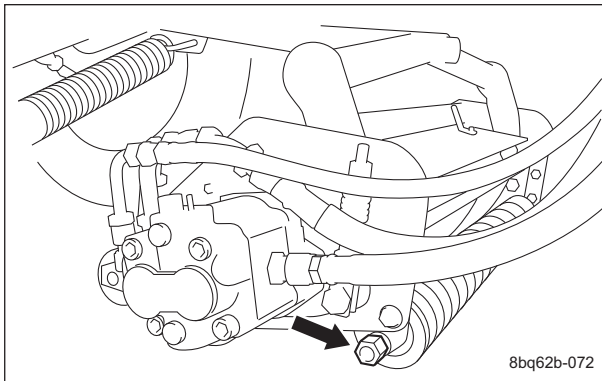


	部位	注油箇所数
1	前ローラー部	6
2	後ローラー部	6
3	ハウジング部	6
4	モアフレーム支点部	3
5	リフトアーム支点部	3
6	アイドルレバー支点部	1
7	ピボット部	3
8	ピストンポンプ部	2
9	走行ペダル支点部	1
10	走行ペダル軸支点部	1
11	ブレーキレバー軸部	2
12	リールモーター軸部	3

## 1. 前ローラー部

参考：

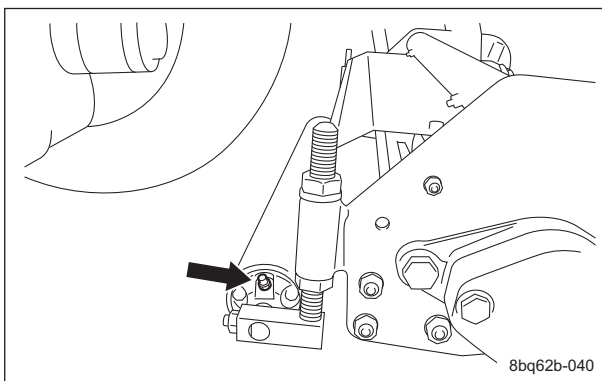
この機能は仕様により、無い場合があります。  
各モアユニットの前ローラー部の左右にそれぞれ1つの注油箇所があります。



グリースアップ位置\_002

## 2. 後ローラー部

各モアユニットの後ローラー部の左右にそれぞれ1つの注油箇所があります。

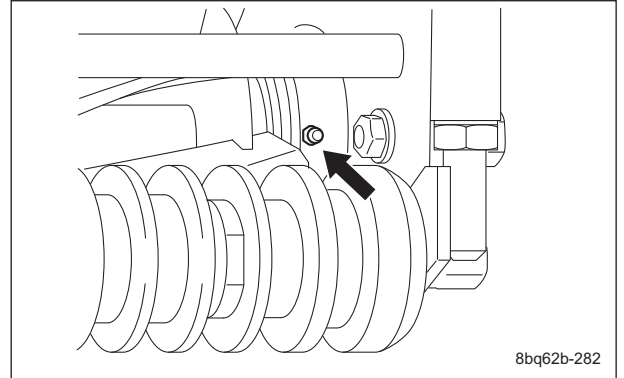


グリースアップ位置\_003

## 3. ハウジング部

各モアユニットの左右のハウジング部にそれぞれ1つの注油箇所があります。

油圧モーターハウジング側

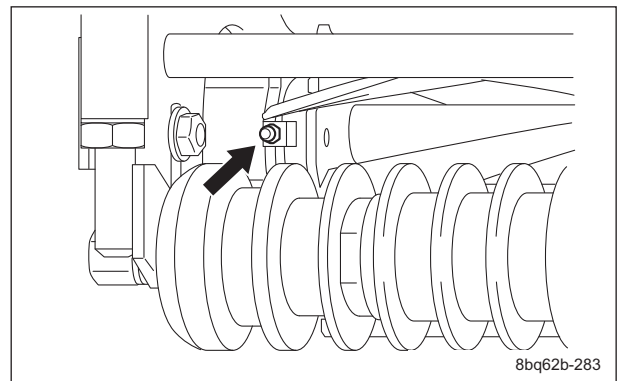


グリースアップ位置\_004

## 重要

50 時間ごとのグリース注入は、常に手動グリースガンを使用して、2 ポンプ以下にしてください。電動グリースガンは使用しないでください。CR ブラシ取り付け側のリールハウジング内部のグリース限度容量は、約 25 g (0.05 lb) です。目安として、1 回に 2 g (0.004 lb) のグリース注入を繰り返すと、約 12 回 (600 時間) でハウジング内部のグリース量は、ほぼ限度容量に達します。グリースが限度容量を超えると、ブラシフレームが外側へ突出します。そのため、グリースが限度容量に達したら、ブラシフレームを取り外して、リールハウジング内部のグリースを取り除いてください。

リールハウジング側

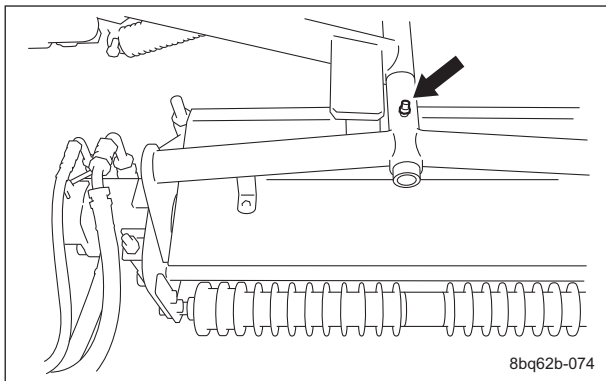


グリースアップ位置\_005

# メンテナンス

## 4. モアフレーム支点部

各モアユニットのモアフレーム支点部にそれぞれ1つの注油箇所があります。

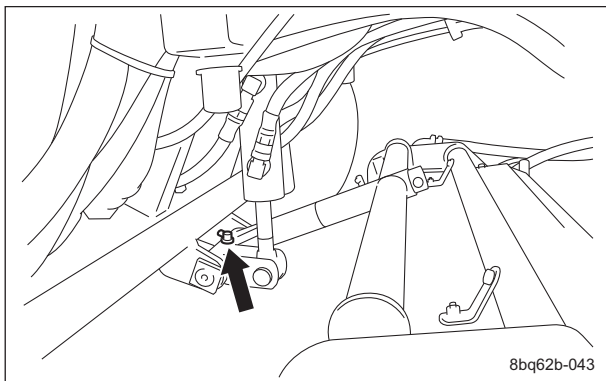


グリースアップ位置\_006

## 5. リフトアーム支点部

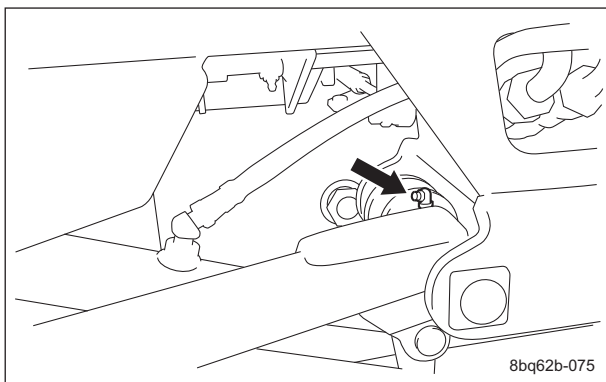
各モアユニットのリフトアーム支点部にそれぞれ1つの注油箇所があります。

#1 モアユニット



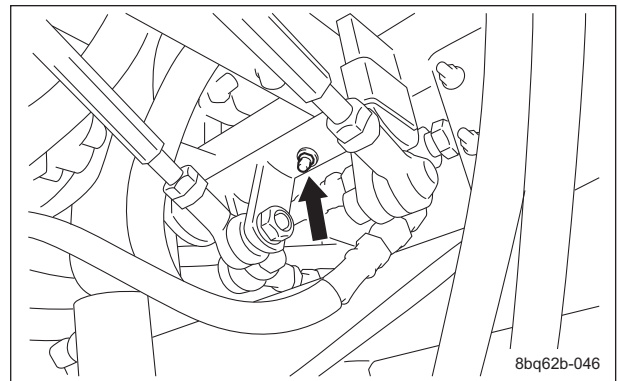
グリースアップ位置\_007

#2、3 モアユニット



グリースアップ位置\_008

## 6. アイドルレバー支点部

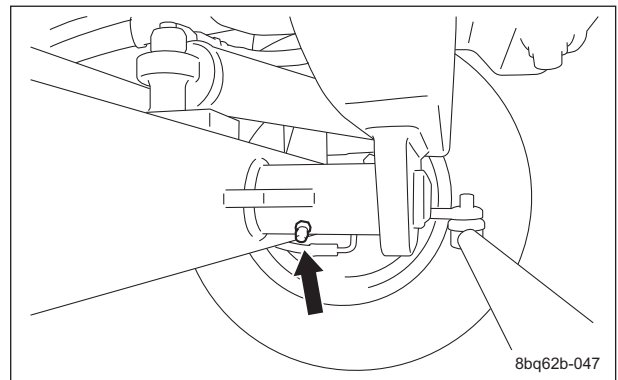


グリースアップ位置\_009

## 7. ピボット部

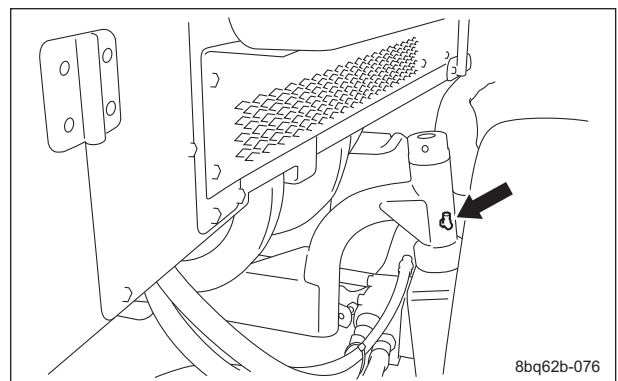
ジャッキアップをして、グリースアップをしてください。

後輪中央



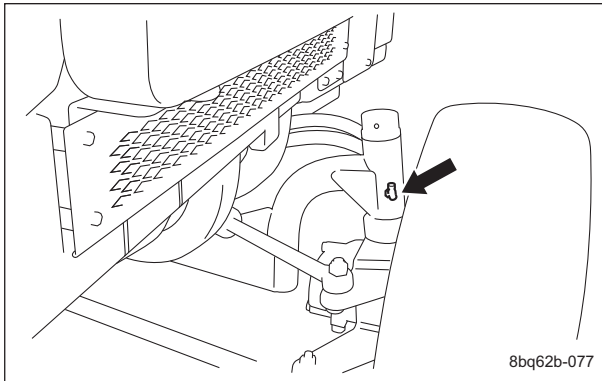
グリースアップ位置\_010

後輪右側



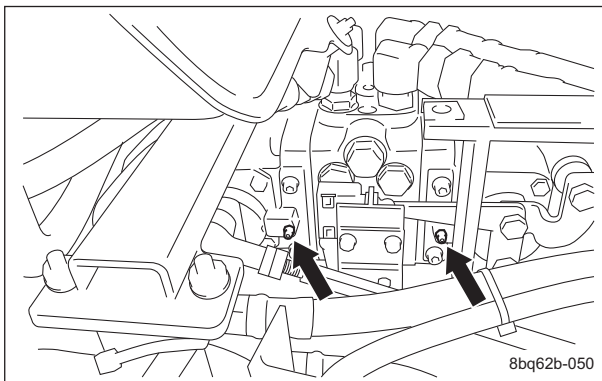
グリースアップ位置\_011

後輪左側



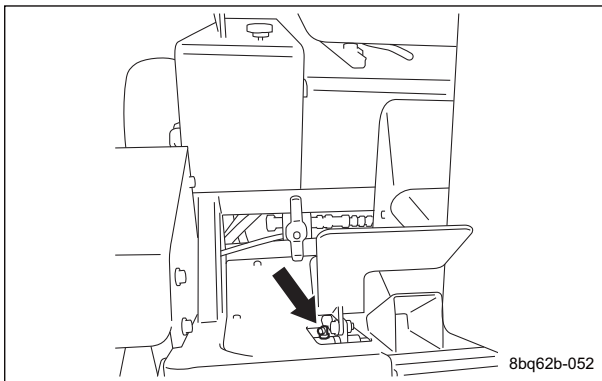
グリースアップ位置\_012

8. ピストンポンプ部  
ピストンポンプ部に2つの注油箇所があります。



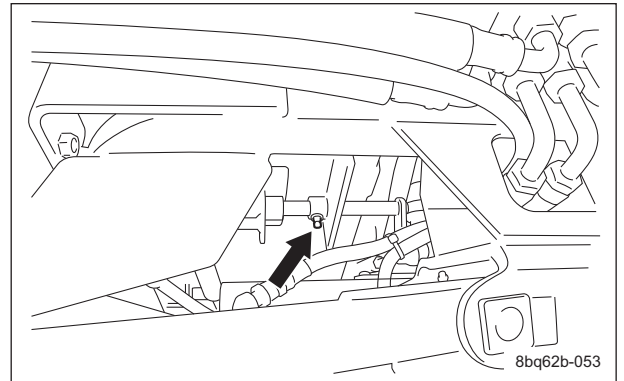
グリースアップ位置\_013

9. 走行ペダル支点部



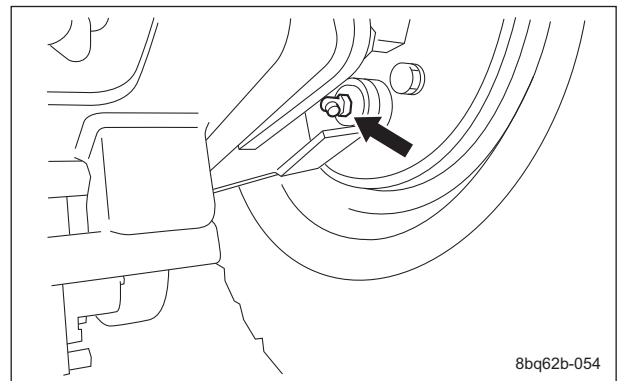
グリースアップ位置\_014

10. 走行ペダル軸支点部



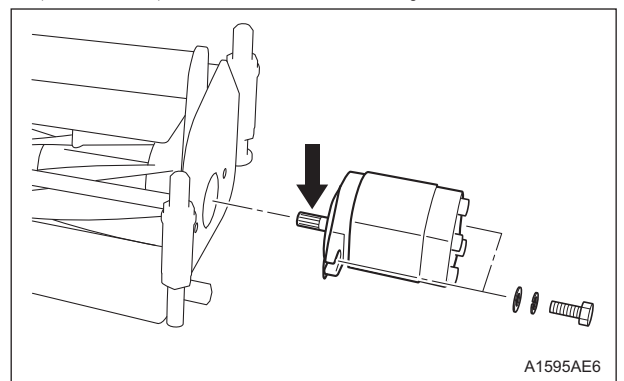
グリースアップ位置\_015

11. ブレーキレバー軸部  
左右のブレーキレバー軸部にそれぞれ1つの注油箇所があります。



グリースアップ位置\_016

12. リールモーター軸部  
各モアユニットのリールモーター軸に250時間ごとにモリスピードグリース2号を2g (0.004 1b) 塗布してください。



グリースアップ位置\_017

# メンテナンス

## 注油

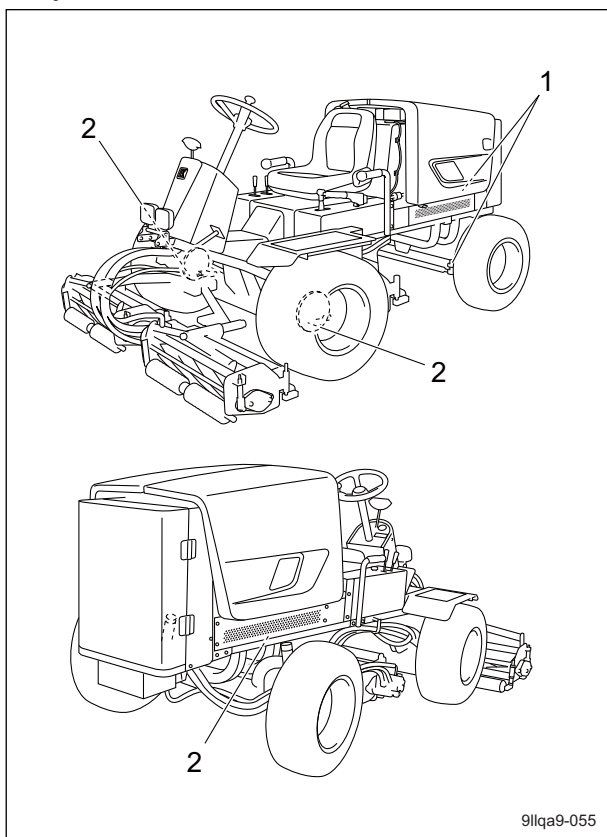
### 注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。

潤滑剤を塗布してください。

### 注油位置

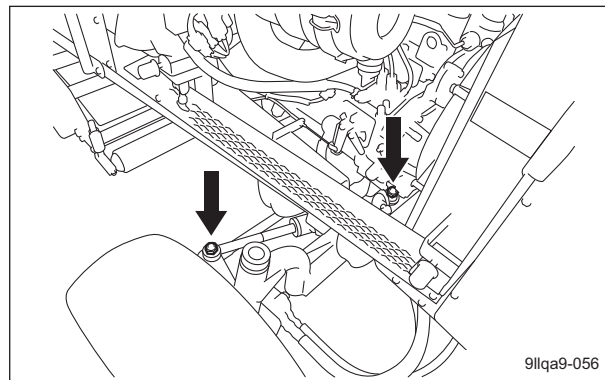
次の場所に 50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。



注油位置\_001

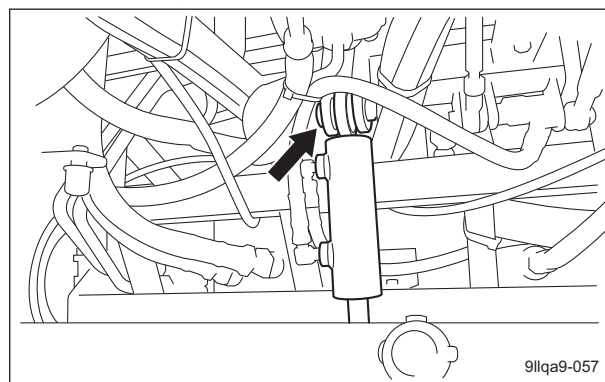
	部位	注油箇所数
1	ステアリングシリンダー球面軸受部	2
2	モア昇降シリンダー球面軸受部	3

1. ステアリングシリンダー球面軸受部  
2か所あります。



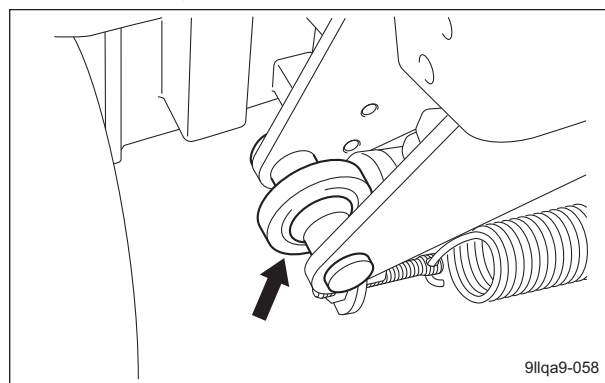
注油位置\_002

2. モア昇降シリンダー球面軸受部  
モア昇降シリンダーに各 1 か所あります。  
#1 モアユニット



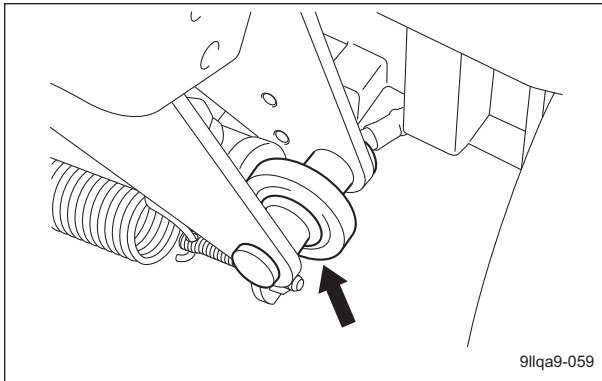
注油位置\_003

- #2 モアユニット



注油位置\_004

#3 モアユニット



注油位置\_005

## メンテナンスの方法

### バックラッピング

バックラッピングとは、包丁の刃を研ぐようなもので、リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れにくくなった場合、ペースト状の研磨剤を塗って、リールカッターを逆回転させながら刃先を研ぐ作業のことです。

しかし、バックラッピングは応急処置的なもので、切れ味は完全には戻りません。

リールカッターとベッドナイフの刃先が丸みを帯びて切れ味が悪くなった場合は、以下の手順で、バックラッピングを行ってください。

#### 警告

バックラッピング作業中はリールカッターが回転しています。  
可動部に手足を近づけないでください。

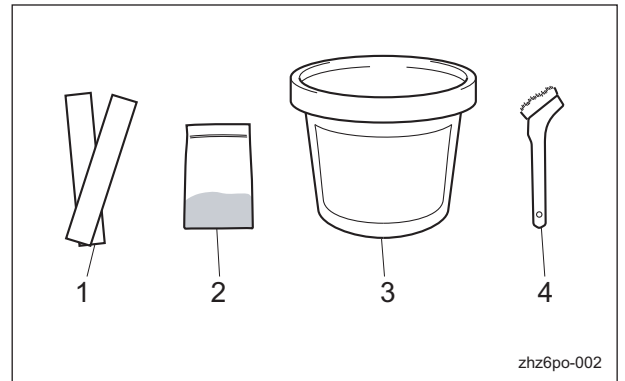
#### 注意

バックラッピング作業は排気ガスを吸わないように注意してください。

#### 注意

二人以上でバックラッピング作業を行わないでください。

1. 新聞紙を短冊型に裂いたもの、バックラッピングパウダーとオイルを混合した研磨剤または、ジェルコンパウンド（バロネス純正研磨剤）、ブラシを用意します。



バックラッピング\_001

1	新聞紙
2	バックラッピングパウダー
3	ジェルコンパウンド
4	ブラシ

参考：

研磨剤の混合比は体積比で、バックラッピングパウダー（#150 - #200）1：オイル3 - 4です。

#### 注意

リールカッターやベッドナイフを取り扱うときは、手袋などで手を保護してください。  
ただし、リールカッターを回すときに手袋などが巻き込まれると、手や指を切るおそれがありますので十分注意してください。

#### 注意

刃合わせ調整をする際は、必ずモアユニットに付いているリールモーターのリール回転・停止切り替えレバーを「停止」の位置にしてください。

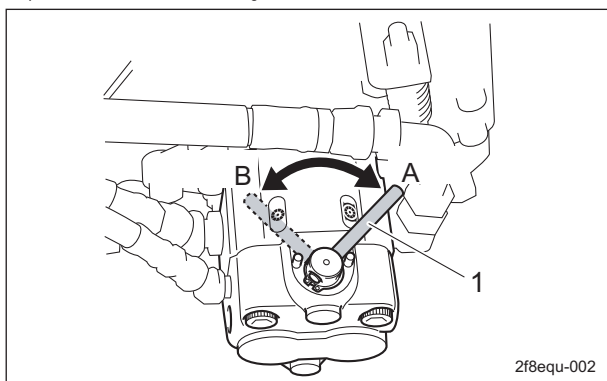
#### 重要

切れ味は、刈り込み後の刃合わせ状態で調べてください。

2. すべてのモアユニットを上げてください。
3. エンジンを停止してください。

# メンテナンス

4. リール回転・停止切り替えレバーを「停止」位置にしてください。



バックラッピング\_002

1	リール回転・停止切り替えレバー
A	回転
B	停止

5. 短冊型に裂いた新聞紙2 - 3枚をリールカッターとベッドナイフの間に90°の角度で入れ、モアユニットを左から見てリールカッターを反時計回転に手で回して切り、切れ味を調べます。
6. リールカッターの全面(3 - 4か所程度)にわたり、切れ味を調べます。
7. 切れ味を調べ、切れ味の良いところにチョークなどで印を付けます。
8. バックラッピングするモアユニットにある油圧モーターのリール回転・停止切り替えレバーを「回転」位置にします。バックラッピングしないモアユニットは、「停止」位置にします。
9. エンジンを始動させます。
10. すべてのモアユニットを地面に下ろします。
11. リール回転レバーストッパーのつまみを緩め、「バックラッピング時」の位置に完全に移動させ、つまみを締めます。
12. エンジン回転速度を低速にします。

## 重要

リール回転レバーストッパーのつまみが「バックラッピング時」の位置に完全に移動していない状態で、リール回転レバーを「逆転」側に倒すと、安全装置が作動し、エンジンが停止します。

13. リール回転レバーを「逆転」側に倒し、リールカッターをバックラッピング回転させます。
14. リール回転・停止切り替えレバーでリールカッターの回転速度を調整してください。

15. ブラシに研磨剤をつけ、チョークの印を目印にしてリールカッターの切れ味の良い部分の上面に均一に塗布します。(切れ味の悪い箇所には絶対に塗らないでください。)
16. しばらく空転させておき、接触音がしなくなったら、リール回転レバーを「停止(中立)」の位置に戻し、リールカッターの回転を停止させます。
17. すべてのモアユニットを上げます。
18. エンジンを停止します。
19. リールカッターに塗布した研磨剤を洗い流すか、ウエスなどでふき取り、切れ味を調べます。
20. 手順4. - 19.の作業を繰り返し、リールカッターの全面(3 - 4か所程度)が均一になるようにバックラッピングします。
21. すべてのモアユニットを下します。
22. 最後にリールカッターの刃先全幅に研磨剤を塗布し、仕上げのバックラッピングを行います。
23. リール回転を停止させ、エンジンを停止し、残っている研磨剤を注意深く徹底的にきれいに洗い流してください。
24. リール回転レバーストッパーのつまみを緩め、「刈り込み時」の位置に完全に移動させ、つまみを締めます。
25. リール回転・停止切り替えレバーを「停止」の位置に戻します。
26. 切れ味の確認をしながら、刃合わせ調整を行ってください。



## リールカッターの研磨

リールカッターの研磨とは、リールカッターの真円を出す作業と、リリーフ（2番）を作る作業のことです。

バックラッピングを行っても、切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2番）がなくなったときにする作業です。

バックラッピングを行っても切れ味が戻らない場合や、リリーフ（2番）がなくなり、ベタ当たりしバックラッピングに時間がかかるようになった場合は、研磨を行ってください。

また、リールカッターが磨耗して円錐形になってしまった場合は、円筒研磨し、円筒形に戻してください。

研磨機をお持ちでない場合、リールカッターの研磨は、購入販売店または弊社までご依頼ください。

### ⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

### ⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの研磨の基準は、以下のとおりです。

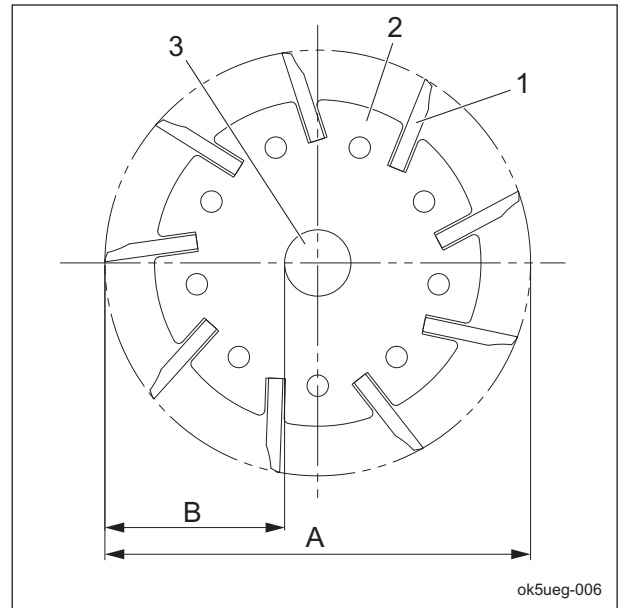
ただし、基準値は目安であり、リールカッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターは、研磨後、リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以上残る場合、研磨を行うことができます。

新品		使用限界	
寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
163 mm (6.42 in)	68.8 mm (2.71 in)	143 mm (5.63 in)	58.8 mm (2.31 in)

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm (1.00 in) です。



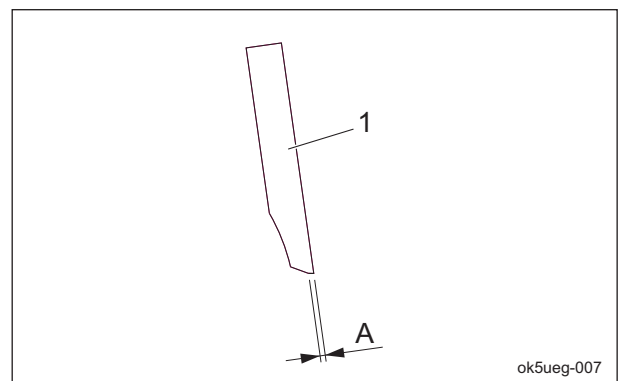
リールカッターの研磨\_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

2. リールカッターが以下の状態になった場合は、研磨が必要です。

- [1] リールカッターの外径研磨幅（ベッドナイフ接触部の長さ）が、使用限界寸法以上になった場合。

リールカッター外径寸法（新品）	リールカッター外径研磨幅の使用限界寸法
163 mm (6.42 in)	3.0 mm (0.12 in) (メーカー推奨)



リールカッターの研磨\_002

1	リールカッター刃
A	リールカッター外径研磨幅

- [2] 刃先が極端に丸くなり、バックラッピングでは刃のエッジが立てられない状態になった場合。

# メンテナンス

- [3] リールカッターが磨耗して円錐形になり、刃合わせ調整ができなくなった場合。

## リールカッターの交換

### ⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

### ⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

リールカッターの交換の基準は、以下のとおりです。

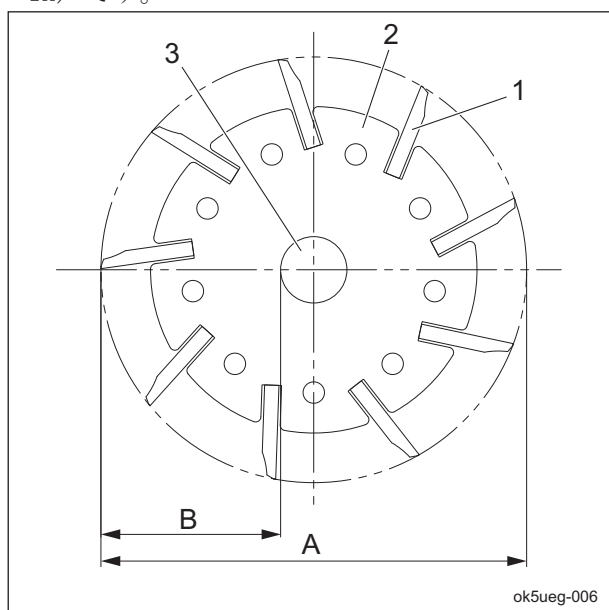
ただし、基準値は目安であり、新品状態のリールカッターの性能を保証するものではありません。

1. リールカッターの外径寸法が使用限界寸法以下になった場合。

新品		使用限界	
寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)	寸法：A (リールカッター外径)	寸法：B (刃先外径部-リールカッター軸外径部)
163 mm (6.42 in)	68.8 mm (2.71 in)	143 mm (5.63 in)	58.8 mm (2.31 in)

参考：

リールカッター軸の外径寸法は、25.4 mm (1.00 in) です。



リールカッターの交換\_001

1	リールカッター刃
2	リールカッター円盤
3	リールカッター軸
A	リールカッター外径
B	刃先外径部-リールカッター軸外径部

## ベッドナイフの交換

### ⚠ 注意

リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

### ⚠ 注意

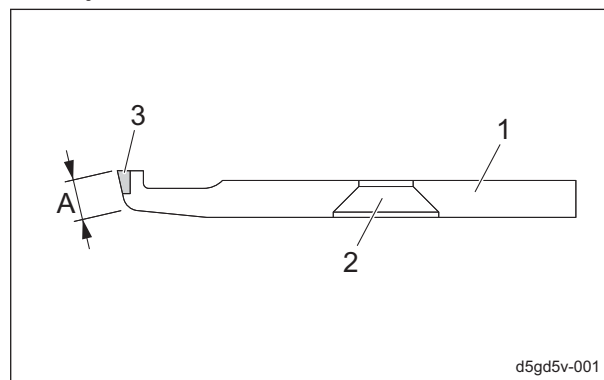
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

ベッドナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. リールカッターを研磨した場合。
2. リールカッターを交換した場合。
3. ベッドナイフが磨耗した場合。

ハイス付刃

ベッドナイフのチップが無くなる前に交換してください。



ベッドナイフの交換\_001

1	ベッドナイフ
2	取り付け穴
3	チップ
A	前面 (フロントフェイス)

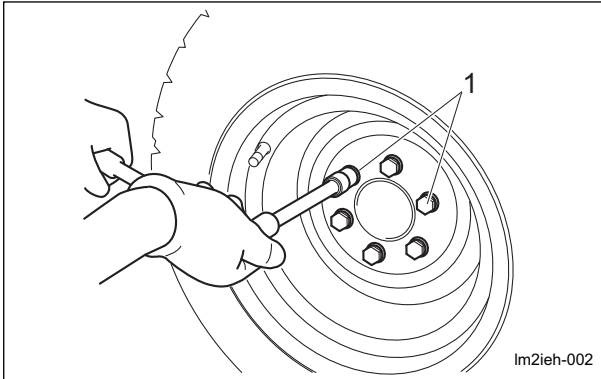


## タイヤの脱着

### 前輪タイヤ

前輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



前輪タイヤ\_001

1 調質ボルト

2. 前部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。  
「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

#### 重要

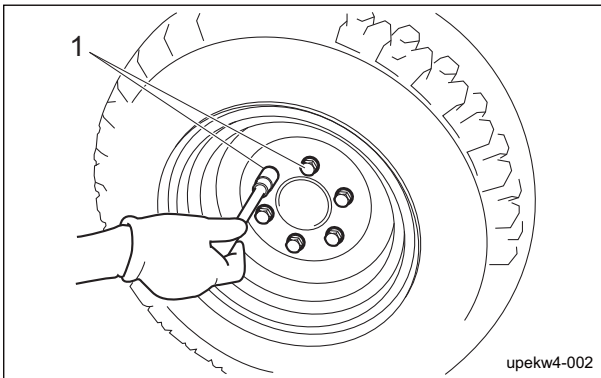
ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

前輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

### 後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



後輪タイヤ\_001

1 調質ボルト

2. 後部フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。  
「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

#### 重要

ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

# メンテナンス

## ベルトの張り調整

### 警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

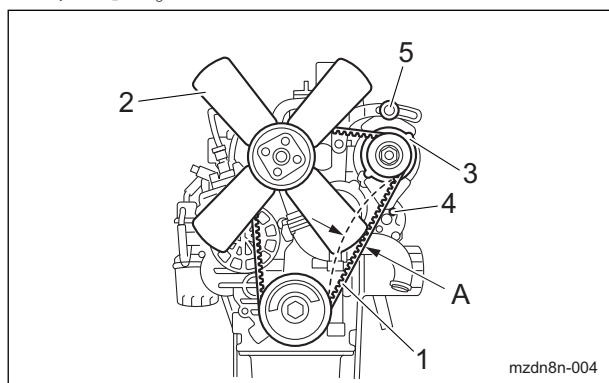
### 重要

ベルトの張り具合の確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。  
また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。  
必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

## ファンベルト

1. ベルトの中央部を指で押さえて、張り具合を確認してください。  
ベルトの中央部を 98 N (10 kgf) で押さえて、約 10 mm (0.39 in) たわむ程度であれば適正です。
2. ベルトの張りが適正でない場合は、オルタネーターを取り付けているボルト A、ボルト B を緩め、オルタネーターを動かして調整してください。



ファンベルト\_001

1	ファンベルト
2	ブレード
3	オルタネーター
4	ボルト A
5	ボルト B
A	10 mm (0.39 in)

## 駐車ブレーキの調整

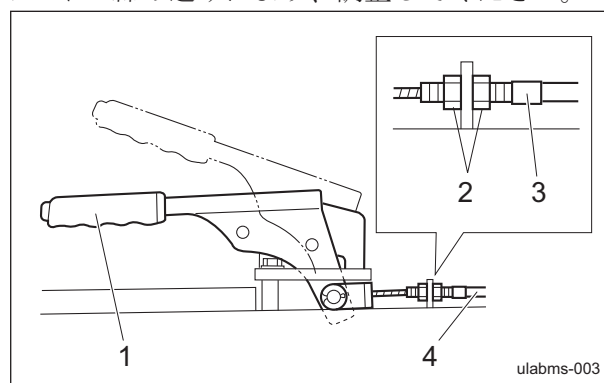
### 注意

ブレーキワイヤーが切れると、機械は停止不能となります。  
ブレーキワイヤーに亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

### 重要

駐車ブレーキが斜面で効くこと、解除したときにブレーキを引きずっていないことを確認してください。  
異常がある場合は、駐車ブレーキ装置の調整を行ってください。

駐車ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトの締め込みにより、調整してください。



駐車ブレーキの調整\_001

1	駐車ブレーキレバー
2	ロックナット
3	アジャストボルト
4	ブレーキワイヤー

## ブレーキの調整

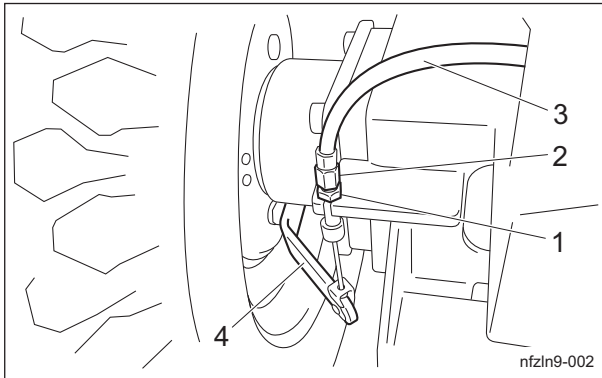
## ⚠ 注意

ブレーキワイヤーが切れると、この機械は停止不能となります。  
ブレーキワイヤーに亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。  
ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

## 重要

ブレーキレバーの遊びは、できるだけ少なく、解除時にブレーキを引きずらない程度に調整してください。

1. ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトの締め込みにより、調整してください。
  - ・ブレーキレバーの遊びを大きくするとブレーキ力が弱まり、ブレーキペダルが軽くなります。
  - ・ブレーキレバーの遊びを小さくするとブレーキ力が増し、ブレーキペダルが重くなります。



ブレーキの調整\_001

1	ロックナット
2	アジャストボルト
3	ブレーキワイヤー
4	ブレーキレバー

2. エンジンを始動して走行し、以下の確認をしてください。
  - ・ブレーキ部が発熱していないことを確認してください。
  - ・左右のブレーキの効きが等しいことを確認してください。

## ⚠ 注意

左右のブレーキの効きが違うと、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

3. 左右のブレーキの効きが違う場合は、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで微調整してください。

## ブレーキの慣らし方法

ブレーキシューまたは、ブレーキパッドが消耗した場合は新品に交換してください。  
交換直後、ブレーキの効きが弱い場合は、ブレーキの慣らし運転をしてください。  
走行しながら、軽くブレーキ操作を行い、当たり面をすり合わせてください。

## ピストンポンプの中立位置の調整

## ⚠ 注意

回転するタイヤに触れないように注意してください。

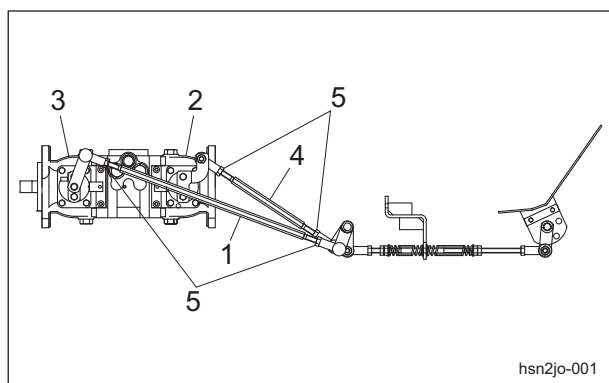
## ⚠ 注意

中立位置の調整を行う際は、機械が動き出すおそれがあります。  
ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、すべてのタイヤが地上から離れるまで機械をジャッキアップしてください。

走行ペダルを踏んでいない状態で前進または後進する場合は、中立が出ていません。  
以下の要領で調整してください。

1. エンジンを停止します。
2. ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、機械をジャッキアップします。  
安定のよいジャッキスタンドに載せ、タイヤが浮くまで上げます。  
「ジャッキアップポイント」(Page 5-5)
3. エンジンを始動し、エンジン回転速度を最高速にします。
4. 中立位置の調整をします。
  - (1) 前輪タイヤが前進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、前輪用ロッドを縮める方向に回します。
  - (2) 前輪タイヤが後進方向に回転する場合は、ロックナットを緩め、前輪用ロッドを伸ばす方向に回します。

# メンテナンス



ピストンポンプの中立位置の調整\_001

1	後輪用ロッド
2	前輪用ポンプ
3	後輪用ポンプ
4	前輪用ロッド
5	ロックナット

5. 前輪が止まる位置を見つけ、ロックナットで固定します。
6. 後輪も同様に調整してください。

## 冷却水の交換

### ⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

### ⚠ 注意

交換はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

### ⚠ 注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が噴き出し、火傷をするおそれがあります。水温および、圧力が下がってからキャップを厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

### 重要

冷却水を交換する場合は、冷却水を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

### 重要

冷却水を交換する場合は、必ずきれいな水と不凍液（ロングライフクーラント）を混合し、ラジエーターとリザーブタンクに注入してください。

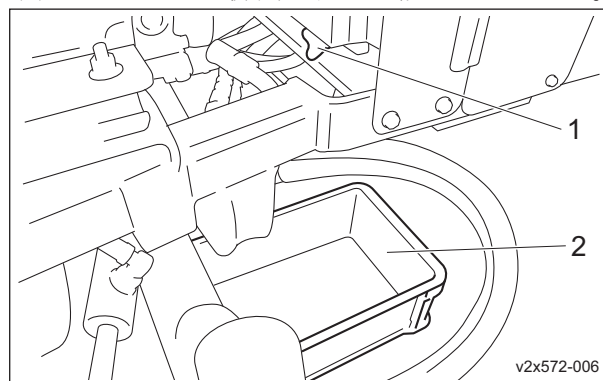
### 重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンがオーバーヒートにより損傷します。

不凍液ときれいな水を混合する場合、不凍液の混合比は以下の「ロングライフクーラント (LLC) 濃度と凍結温度の関係」を参考にしてください。ロングライフクーラント (LLC) 濃度と凍結温度の関係

凍結温度	LLC 濃度 (容量%)
-10 °C (14 °F) まで	20 %
-15 °C (5 °F) まで	30 %
-20 °C (-4 °F) まで	35 %
-25 °C (-13 °F) まで	40 %

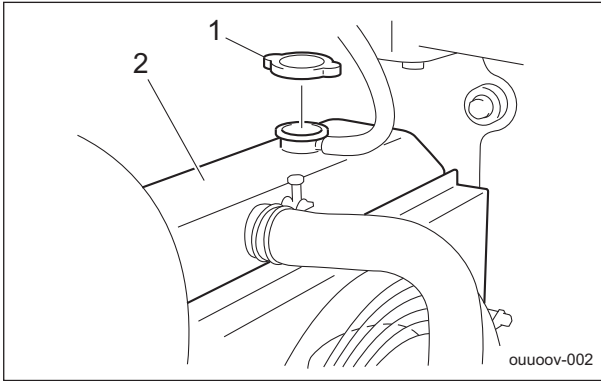
1. エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
2. ボンネットを開けてください。
3. 以下の要領で冷却水を排出します。
  - [1] 冷却水を受ける容器を置いてください。
  - [2] ラジエーター排出コックを緩めてください。



冷却水の交換\_001

1	ラジエーター排出コック
2	容器

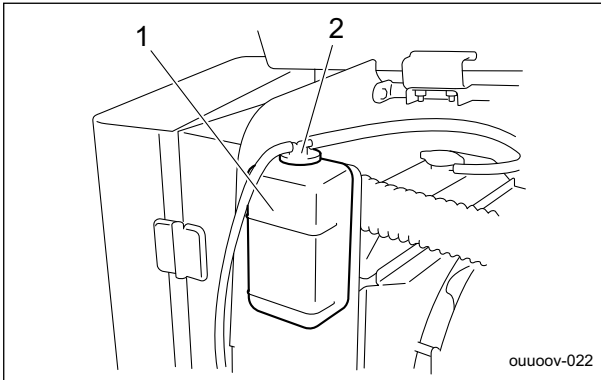
- [3] ラジエーターキャップを取り外し、冷却水を排出してください。



冷却水の交換\_002

1	ラジエーターキャップ
2	ラジエーター

- [4] リザーブタンクを取り外してください。



冷却水の交換\_003

1	リザーブタンク
2	リザーブタンクキャップ

- [5] リザーブタンクのキャップを開け、冷却水を排出してください。
4. リザーブタンクを取り付けてください。
5. きれいな水でゴミやさびが出なくなるまで、ラジエーターを洗浄してください。
6. ラジエーター内の水をすべて排出してください。
7. 以下の要領で冷却水を満たします。  
冷却水容量は、リザーブタンクを含み、6.0 dm<sup>3</sup> (6.0 L) です。
- [1] ラジエーター排出コックを締め付けてください。
- [2] ラジエーターキャップの口元まできれいな水と不凍液をラジエーターに入れてください。
- [3] ラジエーターキャップを閉めてください。
- [4] リザーブタンクの「FULL」まできれいな水と不凍液を入れてください。

- [5] リザーブタンクのキャップを閉めてください。

8. エンジンを始動し、数分間運転して空気抜きをしてください。
9. エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
10. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認し、必要があれば補給してください。
11. ボンネットを閉めてください。

## 油圧作動油の交換

### ⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

### 重要

作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

### 重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

### 重要

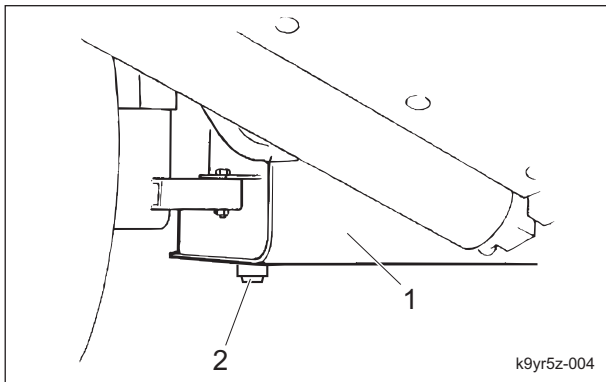
作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。  
相当品を使用する場合は油圧作動油性能表を参考にして、指定された油圧作動油の数値よりも性能の良いものをご使用ください。  
特に動粘度と粘度指数については、指定数値を満たさない油圧作動油を使用した場合は、油圧回路が故障します。

参考：  
油圧作動油性能表

指定油圧作動油		シェルテラス S2M46
ISO 粘度グレード		ISO VG46
密度	15 °C (59 °F)	0.873 g/cm <sup>3</sup> (0.0315 lb/in <sup>3</sup> )
API 度		30.6
引火点 (開放式)		230 °C (446 °F)
流動点		-30 °C (-22 °F)
動粘度	40 °C (104 °F)	46 mm <sup>2</sup> /s (46 cSt)
	100 °C (212 °F)	7 mm <sup>2</sup> /s (7 cSt)
粘度指数		109

# メンテナンス

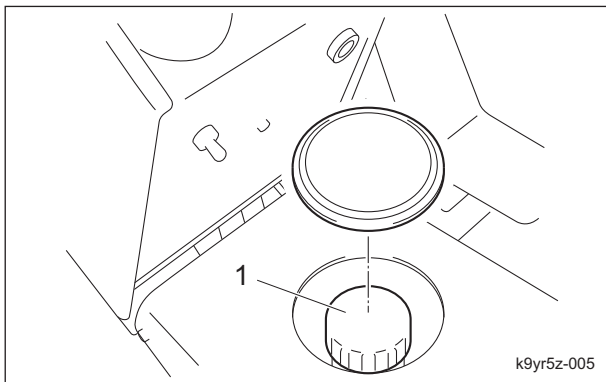
- 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。
  - エンジンを始動し、作動油を温めてください。
  - 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。
  - 油圧タンクのドレンプラグを外し、古い作動油を容器に抜き取ってください。
  - ドレンプラグに新しいシールテープを巻き直し、油圧タンクに再び取り付けてください。



油圧作動油の交換\_001

1	油圧タンク
2	ドレンプラグ

- タンクキャップを開け、注入口から新しい作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。  
油圧タンク容量は、約 24.0 dm<sup>3</sup> (24.0 L) です。



油圧作動油の交換\_002

1	タンクキャップ
---	---------

- タンクキャップを確実に閉めてください。
- エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。  
前後進を数度繰り返してください。
- 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。

- 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

## 油圧オイルフィルターの交換

### 油圧オイルラインフィルターの交換

#### ⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

#### 重要

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

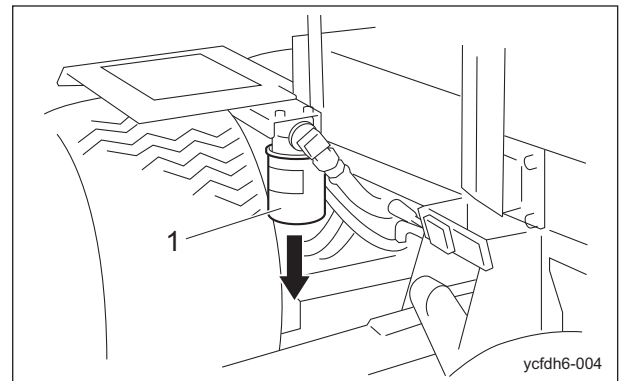
#### 重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

#### 重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

- 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。
- 古いフィルターカートリッジを取り外してください。
- 新しいフィルターカートリッジのパッキンに作動油を薄く塗布し、取り付けてください。
- パッキンが取り付け面に当たるまでフィルターカートリッジを手で確実に締め付けてください。  
その後、さらに 1/2 回転締め付けてください。



油圧オイルラインフィルターの交換\_001

1	カートリッジフィルター
---	-------------

- 油圧作動油を規定量まで補給してください。  
「油圧作動油の補給」(Page 4-6)



6. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
7. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

### 油圧サククションフィルターの交換

#### ⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

#### 重要

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

#### 重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

#### 重要

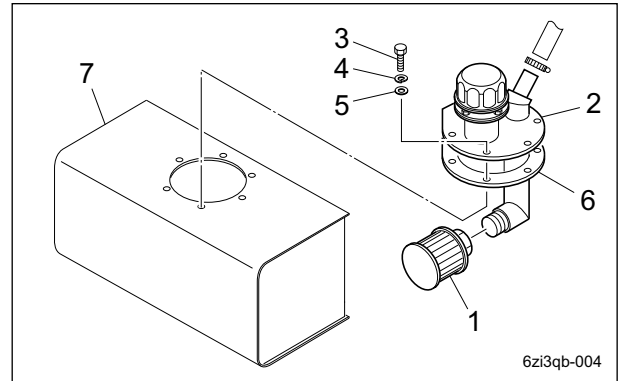
作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

#### 重要

吸入口パッキンは、新品に交換してください。

1. 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。
2. センターカバーを取り外してください。
3. ボルト、S ワッシャー、ワッシャーを取り外し、吸入用ホース継ぎ金具を取り外してください。
4. 古いサククションフィルターと吸入口パッキンを取り外してください。
5. 油圧タンクの古い液状ガスケットをきれいに取り除いてください。
6. 吸入用ホース継ぎ金具の吸入口パッキンと古い液状ガスケットをきれいに取り除いてください。
7. 吸入用ホース継ぎ金具をきれいに洗浄してください。
8. 新しい吸入口パッキンに液状ガスケットを塗布して、吸入用ホース継ぎ金具に取り付けてください。
9. 新しいサククションフィルターを吸入用ホース継ぎ金具に取り付けてください。

10. 吸入用ホース継ぎ金具を取り付けてください。



油圧サククションフィルターの交換\_001

1	サククションフィルター
2	吸入用ホース継ぎ金具
3	ボルト
4	S ワッシャー
5	ワッシャー
6	吸入口パッキン
7	油圧タンク

11. センターカバーを取り付けてください。
12. 油圧作動油を規定量まで補給してください。「油圧作動油の補給」(Page 4-6)
13. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
14. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

### エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

1. エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
  - [1] エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
  - [2] 汚れの多い場合は、規定時間に達していても交換してください。
2. エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。「エアクリーナーの清掃」(Page 4-7)

# メンテナンス

## エンジンオイルの交換

### 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

### 重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

### 重要

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

### 重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

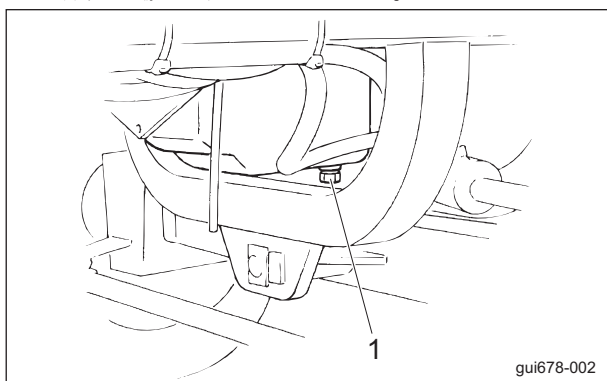
エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

1. 以下の要領で、古いエンジンオイルを抜き取ってください。

[1] エンジンを始動し、エンジンオイルを温めてください。

[2] 水平な場所でエンジンを停止してください。

[3] ドレンプラグを外し、古いエンジンオイルを容器に抜き取ってください。

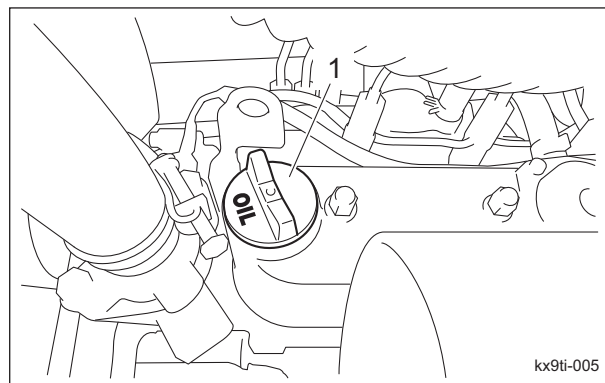


エンジンオイルの交換\_001

1 | ドレンプラグ

[4] ドレンプラグを再び取り付けてください。

2. オイルフィルターキャップを取り外し、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。エンジンオイル量は、約 3.0 dm<sup>3</sup> (3.0 L) です。
3. オイルフィルターキャップを確実に取り付けてください。



エンジンオイルの交換\_002

1 | オイルフィルターキャップ

4. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。
5. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。



## エンジンオイルフィルターの交換

**注意**

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

**重要**

エンジンオイルフィルターを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

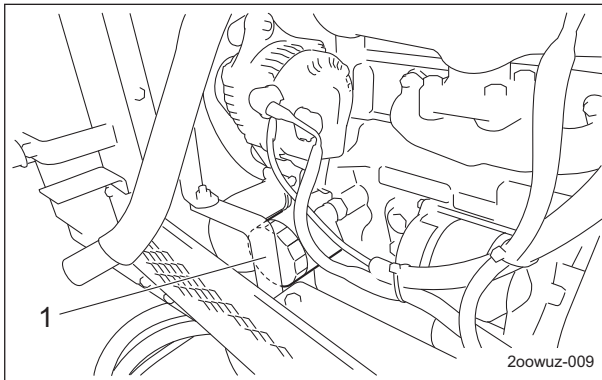
**重要**

エンジンオイルは、API サービス分類の CF 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

**重要**

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

- 古いフィルターカートリッジをフィルターレンチで取り外してください。



エンジンオイルフィルターの交換\_001

1	フィルターカートリッジ
---	-------------

- 新しいフィルターカートリッジのパッキンにエンジンオイルを薄く塗布してください。
- フィルターカートリッジを手でねじ込み、シール面にパッキンが接触してから、フィルターレンチを使用せず手でしっかり締め付けてください。
- エンジンオイルを規定量まで補給してください。  
「エンジンオイルの補給」(Page 4-9)
- エンジンを始動し、10 - 20 分後に停止してください。
- フィルターカートリッジのシール面から油漏れが無いことを確認してください。

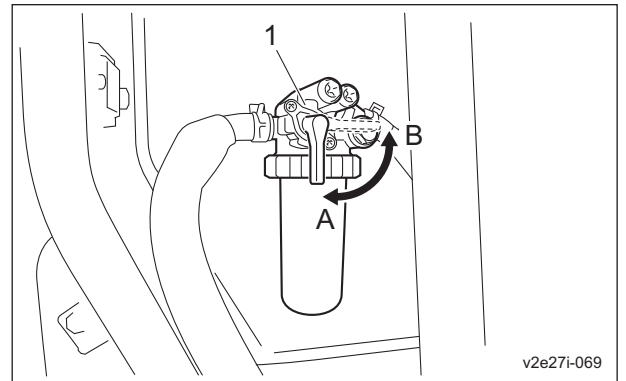
- エンジンオイルの油量を確認してください。  
少ない場合は、エンジンオイルを規定油面まで補給してください。

## 燃料フィルターエレメントの交換

燃料フィルターは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。

適切な時期に交換するように心掛けてください。燃料フィルターは、シート右後方にあります。

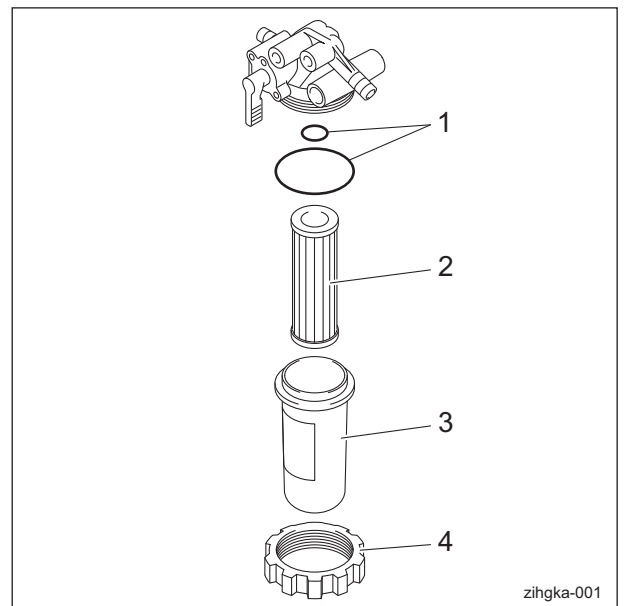
- 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。



燃料フィルターエレメントの交換\_001

1	燃料フィルター
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

- リングネジを外し、カップを取り外してください。



燃料フィルターエレメントの交換\_002

1	Oリング
2	エレメント
3	カップ
4	リングネジ

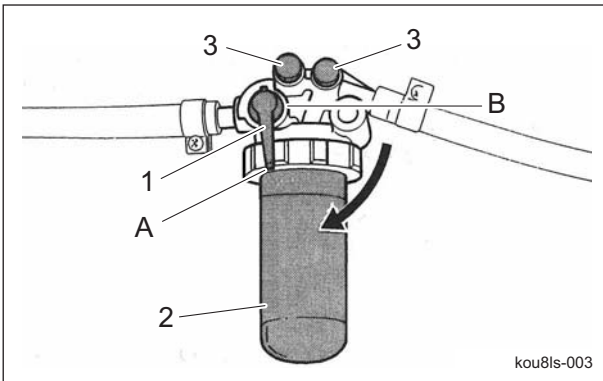
# メンテナンス

3. フィルターカップ内部を軽油で洗浄してください。

## 重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。  
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料噴射ポンプや噴射ノズルが磨耗します。

4. 新しい燃料フィルターエレメントを取り付け、元のように正しく組み付けてください。  
5. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。



燃料フィルターエレメントの交換\_003

1	燃料コック
2	燃料フィルター
3	空気抜きプラグ
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

参考：

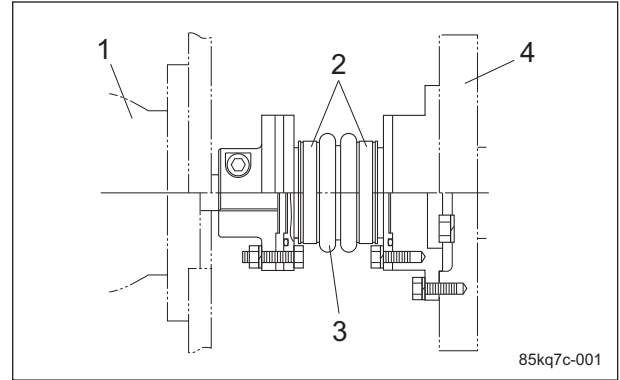
自動エア抜き付のため、空気抜き不要です。

## 等速ジョイントの交換

### 重要

NTN 等速ジョイント用グリース以外のグリースは使用しないでください。

ジョイントと取り付け部やブーツバンド取り付け部にグリース漏れが発生した場合、ブーツ、Oリングなどを交換してください。  
ブーツバンドの再使用は不可能なため、新しいものを使用してください。



等速ジョイントの交換\_001

1	油圧ポンプ
2	ブーツバンド
3	ブーツ
4	エンジン

## ヒューズの交換

### 重要

電気システムのメンテナンスを行う場合は、必ずバッテリーのマイナス配線を取り外してください。

### 重要

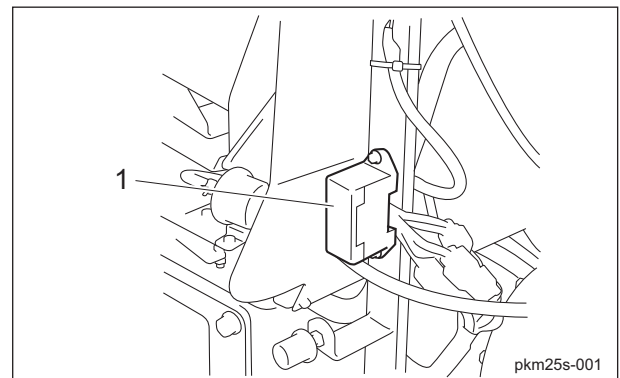
ヒューズが切れた場合は、電気回路内で短絡が生じている可能性があります。  
端子の接続不良、配線、端子の損傷、配線の組み間違いなど、原因を調べてください。

### 重要

ヒューズを交換するときは、ヒューズを取り付ける前にヒューズ取り付け部を圧縮空気で清掃してください。

## ヒューズボックス

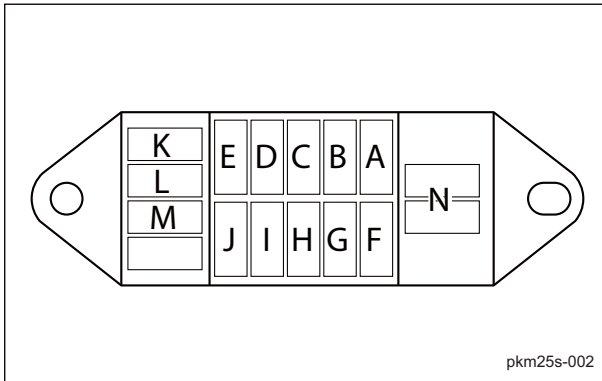
ヒューズボックス内にスペアヒューズ、交換工具が付属されています。



ヒューズボックス\_001

## 1 ヒューズボックス

ヒューズは、自動車用ミニヒューズです。  
規定容量のものと交換してください。



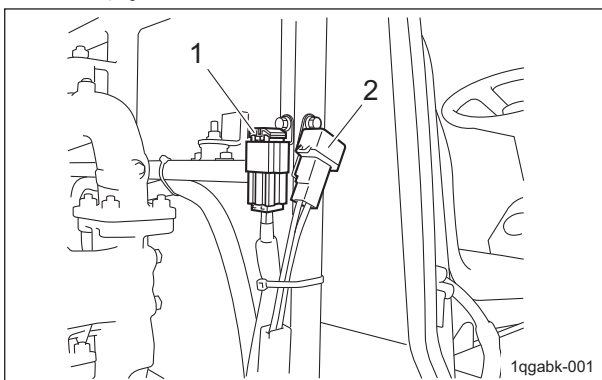
pkm25s-002

ヒューズボックス\_002

A		接近センサー、リール回転停止ソレノイド
B		チャージランプ、オイルプレッシャーランプ（エンジン油圧ランプ）、水温計、ブザー、アワーメーター、燃料計
C		燃料ポンプ
D	5 A	グローランプ（サーモスタートランプ）
E		グローランプタイマー
F		スターターリレー
G		エンジン停止ソレノイド
H		オルタネーター（IG）
I		グローランプタイマー
J	15 A	ライト
K		スペア（5 A x 2、15 A x 1）
L		
M		
N		工具

## ヒューズブルリンク

ヒューズブルリンクのヒューズ容量は、30 A、50 A です。



1qgabk-001

ヒューズブルリンク\_001

1	ヒューズブルリンク（50 A）
2	ヒューズブルリンク（30 A）



**BARONESS**<sup>®</sup>  
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社  
〒442-8530 TEL (0533) 84-1221  
愛知県豊川市美幸町1-26 FAX (0533) 84-1220